

2019年度 事業報告書

(各拠点)

社会福祉法人十字の園

法人本部 2019年度事業報告書

I. 総括

A. 精神的基盤について

1. 創立の精神（こころ）を受け継ぐための実践。

- ・法人の基本理念「夕暮になっても光がある」「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります。」に基づく行動を意識するため、浜松十字の園または第2アドナイ館の毎朝の礼拝で聖書の言葉に触れ、朝礼等で行動規範の唱和を行った。

2. 新しい組織体制への改変

- ・浜松地区の一体化は、事務部門を経理・労務・総務に分け、法人本部の3課長が各々の担当課長を兼務する体制で一体化を進めたが、縦割り意識が強くなり、課長は本部事務所へ常駐したため、地区事務内の横の連係が薄くなり、一体化が難しくなった。この改善のため次年度は地区事務へ事務長を配置し連携力を深める体制としたため、本部はこれを支援していく。
- ・新たな理事長及び役員体制に対応し、法人本部組織を改編する計画だったが、浜松地区一体化に注力することになってしまい、目立った改編はできなかった。

3. 地域との共生社会の実現

- ・浜松地区で実施される3施設総合見学会の計画や運営に協力した。
- ・浜松地区施設の地域活動、催し物等へ参加し、協力した。

4. 採用・人材育成の取組と研修の連動による働き甲斐の創出

- ・来年度より評価制度と賃金体系を結びつけるため、人財育成制度改革プロジェクトで、あおば社会保険労務士事務所と連携し、給与制度の見直しの準備を進めた。

5. 内部管理体制と中長期計画の策定により経営の健全化に向けて取り組む

- ・内部管理体制適正化に向けてリスクマネジメント基本規程、コンプライアンス指針、職務分掌を作成した。

II. 事業計画の達成状況

1. 労務・人事管理

- ・朝礼等で行動規範の唱和を実施しているが、規範に基づく行動の実施と検証が新たな課題。
- ・浜松地区で導入した勤怠システムにより効率化が図られている。次年度は勤怠に係る申請書類のペーパーレス化を目指し、更なる効率化を進める。
- ・浜松地区衛生委員会を設け、職員の心身の健康を守る安全衛生活動の一体化を推進した。委員会主体の研修を持つことができなかったことが課題。
- ・2020年度の介護職新卒採用は目標の6名に対して3名だった。採用に特化したホームページを作成することができ、次年度以降につなぐ活動は実施できた。
- ・労務・給与部会は、賃金制度の改定、同一労働同一賃金対応に追われ、メールでの情報共有は行えたが、部会は開催できなかった。

2. 財務

- ・浜松地区の経理業務効率化を図る仕組みとして次の事柄を実施した。
 - ① 購入伺い書を統一し、購入から支払いまでスムーズに対応できる仕組みを整えた。
 - ② ネットバンキングを活用し複数の場所から入金状況を確認できる環境を整えた。
 - ③ エクセルで作成した仕訳伝票を財務システムへ連携させる環境を整えた。
 - ④ ケアハウスの利用料伝送システムを更新し、利用者の利便性向上と業務効率化を図った。
 - ⑤ 国保連への伝送システムを統一し、次年度から運用開始する。
- ・財務システムを更新し消費税率改正に対応した。また、会計事務所へシステム上の税区分の登

録状況の点検を依頼し、消費税申告業務の迅速化と適正化を図った。

- ・ 予算書の作成と管理方法の具体的な検討はできなかった。次年度の体制の中で検討する。
- ・ 会計に関する知識の習得のため外部研修に参加した（決算書類分析講座、社会福祉法人会計実務セミナー等）。
- ・ 法人全体の経理課長会議（年2回）、経理担当者会（年1回）を開催し、課題把握と標準化・質の向上を図った。

3. 総務

- ・ beat（ネットワークセキュリティーシステム）更新に備え、各施設のネットワーク環境を取扱業者と確認した。施設ごとで情報管理環境が異なるがスムーズに更新できるよう調整する。
- ・ 本部管理の契約書や稟議書をPDFにして日付と件名をファイル名にして必要時に即応できる環境で整備した。

4. 職員状況（2019年度末）

理事長（常勤）1名、本部長（常勤）1名、事務局長（常勤）1名、課長事務員（常勤）3名

5. 資金収支、財務状況

（1）資金収支予算達成状況

（単位；千円、千円未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	4,075	3,760	46,263	46,778	△42,188	△43,018
施設整備等による収支	0	0	1,685	1,885	△1,685	△1,885
その他活動による収支	108,409	107,499	30,258	41,644	78,151	65,854
当期資金収支差額					34,278	20,951

※当初予算と実績差異の主な内容

- ・ 事業活動収支；求人用ホームページ作成等により広報費が1,503千円増えた。
- ・ その他活動収支；第2アドナイ館拠点への繰入を12,000千円増額した。

（2）設備投資及び積立金の状況

- ・ 設備投資：理事長用パソコン197千円
- ・ 積立金：該当なし

（3）借入金及び借入償還の状況・・・該当なし

6. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	1件	10,000円
遺族	0件	0円
一般	8件	290,000円
職員	1件	5,000円
役員	0件	0円
合計	10件	305,000円

III. 対処すべき課題

1. 法人組織の2地区制への移行と施設長交代後の組織運営を円滑に進めるため、情報の整理・統合・共有を図る。
2. 浜松地区の組織変更を円滑に進めるため、法人本部組織の役割分担を行い、対応する。
3. 新賃金体制が円滑に浸透されるよう、必要に応じて取扱いを検討していく。
4. 業務の標準化とスキルの向上により効率性を図る。

特別養護老人ホーム 浜松十字の園 2019年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

近隣教会の牧師や教会員、引退牧師の協力により、月曜日から金曜日まで毎朝礼拝を行い、語られる聖書の言葉を通して、理念の土台であるキリスト教の精神に触れることができた。

毎朝の各階の申し送り時に担当職員が本日の聖句を読みキリスト教徒でない職員が聖句に触れる機会を作った。

B. 運営方針について

1. 浜松地区組織再編の円滑な移行

- ・組織体制の大きな変化の中、効率性を高めるため会議体の統合を図った。
- ・運転手の連携に取り組みを始めた。特養としても協力体制を持ち取り組みを継続していく。
- ・課長が施設長の役割を担える準備期間として施設長と情報共有し課長が中心に具体的な取り組みを実施した。

2. チーム力の向上とケアの質の向上

- ・日々の連絡会や会議の場で参加者全員が行動規範を唱和し、理念の実現に向けた思いを共有してきた中でハラスメント事象が発生し職員が退職した。発生原因を把握し、それらを排除する環境改善や研修を行い、再発防止に努めた。
- ・オンライン動画研修システムを導入し、対象職員に研修計画を立て、受講状況や回答状況を個別に把握した。しかし、個別育成計画作成までは至ることが出来なかった。

3. 健全経営への取り組み

- ・管理シートを事業所ごとに作成し、浜松地区経営管理会議で説明する中で、目標と実績の差異など意識し、健全化に向けて取り組んだが、全体に対しては意識向上へと繋がらなかった。
- ・特養施設改修計画の検討を再開することが出来ず、次年度浜松地区で委員会を立ち上げて検討を再開することとした。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況・実績

1. 介護老人福祉施設

- ・介護：オンライン動画研修システム委員会を組織し、毎月発信する研修素材の検討と受講結果の確認を行った。2年目以降の職員と新人とで内容を分けて発信した。新人には適切な教材が提供でき、介護技術向上の効果があった。受講率は100%であったが、2年目以降の職員に対しては効果的な受講を検討する必要がある。／浴槽にリフトを取りつけたことで、入浴の幅が広がり、利用者の身体的な負担の軽減や職員の身体的な負担も軽減された。
- ・相談員・施設ケアマネ：ケアプランが現場で活かされるように書式とプランニングの変更を行った。ケアプランを中心としたケアの実践をするには不十分であったため次年度も継続して取り組む。／ケアプランの書式と変更にかかり業務マニュアルの作成が進められなかった。
- ・看護：今年度入所される方の健康診断の様式を必要な項目に変更を行った結果、入所後の看護で必要なデータが確認できるようになった。／医師が不在の際の事前指示書等の作成に取り組むことが出来た。／毎月健康サポートだよりを発行して医療的ケアを多職種に伝えたことで連携がスムーズ

になった。充実したターミナル期を過ごしていただけるように、家族向けの冊子を作成したが、家族へ効果的に伝えるための方法は検討できなかった。

- ・リハビリテーション：iPadで移乗動作の動画撮影を行い、ユニット職員に周知することで利用者に適切な排泄介助を提供する事が出来た。／移乗動作の伝達練習を実施して自立支援の考え方を周知しお互いに伝えられるようになった。また、ヒヤリハットの件数が少なかったため、用紙を記入しやすいものに変更したところ、ヒヤリハットの報告件数が増え年間の事故件数は前年度 428 件に対して今年度は 299 件に減少した。
- ・食事：トロミの勉強会を行い、容器とスプーン、トロミ早見表をユニットに配布したことでトロミに対しての理解が深まった。全体に水分摂取の意識を高めるためユニットごとに対象者を決めて取り組み、標準的なケアに結び付いた。／おやつセレクトはデイサービスに加えてショートステイでも実施し、自己決定や楽しみを提供できた。／デイサービス利用者の体重をグラフ化してコメントを入れ家族に渡すようにしたところ、栄養への意識が高まり、栄養相談があった。

2. 短期入所生活介護

- ・「興味関心シート」を活用し、利用者の興味があること、何がしたいのか、してみたいのかが見えるようになり、介護計画へ反映でき、個別ケアの取組みが進んだ。／専従の相談員を配置することで業務の事務的な作業と介護業務のすみ分けが出来るようになり、効率化が図れ、迅速に居宅支援事業所の問い合わせ等に対応することが出来た。

3. 通所介護

- ・他のサービス事業所とも積極的に利用者の状態・対応等の情報交換を行えた。／利用者の情報共有、ストーリーシートの作成を行なったうえで、その方に合った作業の提供を行い個別ケアの充実を図った。／BMIの表を作成したことで、数値により利用者の食事量の変化に早く気づけるようになった。その事により大きく体調を崩す前の早期にケアマネージャーや家族に情報を伝えることができた。／セレクトメニューを毎週木曜日と金曜日におやつで行っており、食事でも提供できるように計画したが、職員の意識を高めることと、利用者への提供方法がまとまらず食事でのセレクトメニューはできなかった。

4. 診療所

- ・委託医師の契約満了による後任医師を確保することができた。

B. 利用実績

(職員数は2019年度末月現在の数とする)

	特 養	短 期	通 所	事業活動収入計 職員数合計
利用定員	120 人	20 人	22 人	
利用者延数	42,452 人	5,972 人	5,034 人	
1日平均利用者数	116.0 人	16.3 人	16.2 人	
稼働率、稼働指数	96.7%	81.6%	74.1%	
稼働日数	366 日	366 日	309 日	
単価 (一人一日当たり)	11,435 円	10,814 円	9,139 円	
介護保険事業収入	485,447 千円	64,586 千円	46,010 千円	603,998
職員数 (常勤換算)	71.5 人	10.8 人	9.3 人	91.6 人

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	620,875	603,998	588,064	573,756	32,811	30,242
施設整備による収支	0	0	6,130	6,923	△6,130	△6,923
その他活動収支	4,800	5,594	31,480	32,163	△26,680	△26,568
当期資金収支					1	△3,250

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・事業活動による収支：収入 16,877 千円減（各事業の利用実績が目標値に達しなかったため 18,696 千円減。落雷被害への火災保険補填等により 2,312 千円増）。支出 14,308 千円減（勤続年数の長い職員の異動や退職等により 12,671 千円減）

2. 事業活動計算書の推移

(単位：千円、未満切り捨て)

	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度	2015 年度
サービス活動収益計	597,191	596,593	587,882	577,844	587,583
サービス活動費用計	587,032	586,332	585,773	580,119	573,704
サービス活動増減差額	10,158	10,261	2,109	△2,275	13,878
経常増減差額	13,555	12,892	4,272	△599	15,608
特別増減差額	△70,690	△14,820	△12,960	△5,180	△86,409
当期活動増減差額	△57,134	△1,927	△8,688	△5,779	△70,800

(2018 年との差額が大きい要因)

- ・特別増減差額が大きく増えている要因について。① さつき棟老朽化対策として進めた建替事業を凍結したことにより 2015 年度に費用計上した設計及び測量等費用 45,900 千円（建設仮勘定）をその他の特別損失で会計処理したため。② 第 2 アドナイ館拠点へ 11,650 千円を繰入したため。

3. 設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資：自動ブレーキ型車椅子 600 千円、電動ベッド 212 千円、デイ乾燥機 66 千円
保存食用冷凍庫 378 千円、野菜用スライサー 705 千円
Windows10 搭載パソコン 2,091 千円
勤怠管理システム（初期費用 1,930 千円、システム使用料 138 千円／月）
*浜松地区で費用按分 [浜松十字の園 50%、アドナイ館 10%、第 2 アドナイ館 40%]
- ・積立金：設備整備積立 1,400 千円

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還 3,324 千円、利息支出 280 千円、年度末残高 44,183 千円

III. 対処すべき課題

- 1 利用者中心に考えられ、信頼関係を持てるチームをつくる。
- 2 自分の行動を振り返った時に、利用者の笑顔があるか考えられる職員になる。
- 3 特養・短期入所の相談員が連携をして稼働率の改善を図る。

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分	2019年	2018年	
入居者数	男	32人	32人
	女	86人	85人
	計	118人	117人
利用日数	男	11,287日	10,529日
	女	31,165日	31,421日
	計	42,452日	41,950日
平均入居期間	男	3.06年	3.02年
	女	3.03年	3.05年
	計	3.03年	3.04年
最長入居期間	男	23.07年	22.00年
	女	19.02年	18.02年

区分	2019年	2018年	
平均年齢	男	81歳	81歳
	女	88歳	88歳
	計	86歳	86歳
最高年齢	男	95歳	96歳
	女	105歳	104歳
最低年齢	男	67歳	66歳
	女	67歳	66歳
出身地域	圏内	113人	114人
	圏外	4人	3人
	県外	1人	0人
平均介護度	3.31	3.41	

区分	2019年	2018年	
入居者数	男	11人	15人
	女	27人	29人
	計	38人	44人
退居者数	男	11人	13人
	女	25人	33人
	計	36人	46人
入院者数	男	22人	8人
	女	17人	31人
	計	39人	39人
入院日数	男	539日	147日
	女	160日	472日
	計	699日	619日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	9人	5人
要介護度2	15人	15人
要介護度3	43人	43人
要介護度4	32人	35人
要介護度5	19人	19人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	21人	27人
病院	4人	8人
老健施設	5人	8人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	8人	1人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	34人	42人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	3人	3人
他施設へ転出	0人	1人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
短期入所生活介護事業	延人数	483	460	429	517	575	518	532	509	492	466	458	533	5,972人	6,244人
	一日平均	16.1	14.8	14.3	16.7	18.5	17.3	17.2	17.0	15.9	15.0	15.8	17.2	16.3人	17.1人
	営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	365日
通所介護事業(一般型)	延人数	438	463	451	448	408	382	424	425	413	389	382	411	5,034人	5,206人
	一日平均	16.8	17.1	18.0	16.6	15.1	15.3	16.3	16.3	16.5	16.2	15.3	15.8	16.2人	17.0人
	営業日数	26	27	25	27	27	25	26	26	25	24	25	26	309日	306日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	7	0	4	0	3	0	3	0	0	0	3	0	
相談員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	介護職員	42	15	19	1	23	14	7	5	7	6	0	-1
	看護職員	7	1	2	0	5	1	2	0	1	0	1	0
	機能訓練職員	1	3	1	2	0	1	0	0	1	0	-1	0
栄養士	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医師	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	16	0	1	0	15	0	6	0	3	0	3	
小計	64	39	28	8	36	31	12	11	9	9	3	2	
在宅事業	通所(一般)	6	4	2	2	4	6	2	3	1	2	1	1
	小計	6	4	2	2	4	6	2	3	1	2	1	1
合計	70	43	30	10	40	37	14	14	10	11	4	3	

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	2件	40,000円
入居者家族	4件	32,000円
遺族	3件	550,000円
在宅	1件	20,000円
一般	31件	226,728円
業者	0件	0円
職員	15件	278,322円
役員	0件	0円
合計	56件	1,147,050円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

* 現員は2020年3月31日現在。

就退職は2019年度内増減。

総合福祉施設 御殿場十字の園 2019年度事業報告

I. 総 括

A. 理念の継承、精神的基盤について

平日の朝の礼拝を御殿場教会のご奉仕や数名の職員が順番で担い、祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修への積極的な参加、十字の園行動規範をサービス基準指針に取り入れ職員への浸透を図るなど、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にしたいサービスの充実に努めた。

B. 運営方針について

1. 利用者一人一人を大切に、その人らしい主体的な暮らしの実現を目指す。

心地よく安心して入浴していただけるよう機械浴槽を2台更新した。また5Sにも力を入れ環境整備等を行い居心地の良い場所を作るなどを行った。

2. 多様なニーズに対し断らないワストップで対応できる拠点施設として、総合的に支援していく。

「断らない」をモットーとし、全事業所と部署が連携し困難事例を含め対応した。また、昨年度増設した地域包括支援センターの地域での認識も高まり、地域の総合相談窓口として機能が強化された。

3. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高め合う。

認知症介護実践者研修や実務者研修などを受講し、介護福祉士試験では4名の職員が合格した。また、いつでもどこでも学習できるよう引き続きオンライン動画による研修を行うと共に、施設内の階層別研修を行った。

4. 安定した経営基盤を構築する。

安定した経営基盤を築くため財務の安定化を図り、今後の大規模修繕や地域や施設の計画的な事業計画の為に経営を行うことができた。

5. 2025年を見据えながら施設や地域の課題に向け取り組む。

全面改築後20年経過した外壁の塗装の大規模修繕を2020年度に計画した。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設

時間外の会議などを削減し負担軽減を図りながら、動画でいつでもどこでも研修を受講できる体制をとり、質の向上及び均一化を図った。手順書の充実と浸透および5Sに関しては達成できず今後の課題となった。ノーリフトケアについては移乗用ロボットを1台導入し職員の負担軽減を図った。

2. 短期入所生活介護

サービスの意向を確認した中で、急な受け入れについてのニーズが高くそれに対応出来る職員を教育しニーズに対応した。また、介護事故については居室内の環境整備を行い居室内の骨折等の事故を0件（前年度2件）にすることができた。

3. 通所介護（通常規模）

サービス提供時間の柔軟な対応や、レクリエーションの選択制など、きめ細やかなニーズに対応し、個別支援につなげた。また、機能訓練については作業療法士を採用しそのアドバイスの下、介護職員と共に質の高いリハビリを提供することができた。

4. 訪問介護

毎月会議と研修を行い、積極的にコミュニケーションと情報共有を図ると共に、定期的な研修の結果、職員も自分から学ぶ姿勢が見えてくるようになった。記録関係は効率を図る書式に見直しはできたが、5Sについては行うことができなかった。

5. 居宅介護支援

困難事例について、職員全員で情報を共有し状況により複数で対応するなど、一人に負担がかからないよう配慮した。医療との連携については訪問看護・主治医等との綿密な連携で医療知識を学ぶなどして、医療依存度の高い方の支援を行うことができた。

6. 地域包括支援センター

シズケアかけはしの運用を富士病院連携室と協力し1事例登録開始した。また、包括ケアシステムに関しては新たな出張相談会の開催、同報無線での出張案内などを開始して地域の高齢者に呼びかけを行った。その他に地域包括ケア会議を増やす試みとして区長会や民生委員ブロック会議、サロン介護予防リーダー養成講座など、市民への啓発活動を行った。

7. 認知症対応型通所介護

他部署と連携し、利用者本人の体調に合わせサービス提供時間の工夫、状況により職員がヘルパーとして訪問するなど全面的な生活支援につながるよう取り組んだ。

8. 認知症対応型共同生活介護

業務のマンネリ化に対して、定期的にグループホーム本来の役割や意義を職員間で振返りの機会を設け、利用者主体の生活支援が行うことができるよう意識共有を図った。また、医療面については全体での勉強会の機会などをあまり設けられなかった。

障害者自立支援事業

(介護給付)

1. 居宅介護・同行援護

多職種や他機関と連携し障がい者へのサービス提供体制を充実させ、余暇支援などを行い社会参加については10件程度（前年度0件）支援することができた。

2. 障害者短期入所

ショートステイのフロアだけでなく地域活動支援センターと協力し、利用者が過ごしたい場所で過ごしてもらうことができた。

(地域活動支援)

3. 地域活動支援センター

ホスピタリティーに関しては「日本人のこころ」など、研修資料を用いて行ったが予定していた研修をすべて行うことはできなかった。他事業所と連携して総合的な支援を図ることができた。

4. 移動支援事業

関係機関と連絡し調整し、希望する時間にサービスを受けることができるよう派遣表をデータ化した。

5. 相談支援事業

他施設や行政も関わっている自立支援協議会に地域生活支援拠点の役割を持たせるべく準備してきた。また、利用者の方の自宅に何度も足を運び「お互いを知る」ことから何でも話することができる関係を築いた。就労支援に関しては企業見学等を行ったが新規事業の検討までは至らなかった。

その他事業等

1. 診療所

口頭連絡から体調不良者を午前、午後のバイタルチェックを行い状態変化の早期発見に努めた。また緊急時の対応として、夜間の急変時などの体制を見直し、介護職員の判断で救急車を呼ぶように迅速化を図った。腰痛については就業前のストレッチやストレッチポールの利用の浸透を図ったが継続して行う必要がある。

2. 研修体制の体系化について入職年数に応じた内部研修などの体制は確立されているが、その他の資質の候向上に向けての取り組みは行うことができなかった。
3. 給食
「食べたい」と思うようなきれいな盛り付けの取り組みを続け、また、利用者の対象に合わせたスピーディーな対応が可能になった。イベントについては職員の体制などの関係で予定通りに開催することができなかった。
4. 介護タクシー事業
10月の消費増税に伴う運賃変更を中部運輸局に申請し許可を得た。虐待などの困難事例についても対応した。
5. ボランティア受け入れ
ロコミや他団体に呼びかけボランティアの募集を図ったが見守りボボランティアに来ていただくことはできなかった。
6. 接遇に関してマニュアルを作成しましたが、マニュアルに沿って対応することにはもう少し時間が必要。
7. 5SについてHYS（働きやすい）委員会を中心に推進し施設環境の整備等行っているが、今後も活動を継続する必要がある。
8. 腰痛欠勤者ゼロについては残念ながら1名腰を痛め欠勤となってしまった。

B. 利用実績

	特養	短期入所	通所介護	認知症対応型通所介護	訪問介護	居宅介護支援	地域包括支援センター
利用定員	107人	11人	45人	12人			
利用者延数	38,779人	3,679人	10,329人	3,231人	4,799時間	2,461	
一日平均利用者数	106.2人	10.1人	28.5人	10.5人	13.1時間	205.1件	
稼働率、稼働指数	99.3%	91.6%	63.2%	87.4%			
稼働日数	365日	365日	363日	308日	365日	12ヵ月	365日
単価（一人一日当たり）	11,465円	16,113円	8,974円	12,504円	4,362円	15,731円	
収入(千円) ※	444,606	59,278	92,689	40,400	20,933	38,715	59,008
職員数（常勤換算）	69.61人	6.81人	15.54人	5.79人	5.14人	6.3人	8人
	地域活動支援センター	障がい者短期入所	障がい者居宅介護	同行援護	障がい者移動支援	障がい者相談支援	介護タクシー
利用定員	15人						
利用者延数	2,788人	168人	699時間	702時間	236時間	404件	1,837回
一日平均利用者数	10.8人	0.5人	1.9時間	1.9時間	0.6時間	1.1件	5.1回
稼働率、稼働指数	72.3%						
稼働日数	257日	365日	365日	365日	365日	365日	363日
単価（一人一日当たり）	8,012円	24,184円	4,597円	4,759円	3,112円	23,748円	824円
収入(千円) ※	22,338	4,063	3,214	3,341	734	9,594	1,513
職員数（常勤換算）	4.81人	1.5人	0.77人	0.74人	0.3人	1人	0.4人
	グループホーム	事業活動収入・職員数合計	※通所介護の定員は平日45人、土曜日25人、日曜15人で、表内の稼働率は45人定員として計算。平日のみの稼働率は78.2%。				
利用定員	18人						
利用者延数	6,458人						
一日平均利用者数	17.7人						
稼働率、稼働指数	98.3%						
稼働日数	365日						
単価（一人一日当たり）	13,811円						
収入(千円) ※	89,190	889,617	※収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入				
職員数（常勤換算）	15.2人	141.91人					

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位;千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	900,095	896,294	820,576	826,032	79,519	70,261
施設整備による収支	0	3,871	30,091	30,197	△ 30,091	△ 26,326
その他活動による収支	3,709	3,680	25,048	26,796	△ 21,339	△ 23,116
当期資金収支					28,089	20,818

注1：事業活動による収入は、短期入所や認知症デイなどの利用増があるものの、通所介護（一般型）の利用が伸び悩み、予算比△3,801千円となった。

注2：事業活動による支出は、自然増や介護職員等特定処遇改善手当（新規）などの支給で、人件費が予算比4,925千円増加し、全体で5,456千円の増加となった。

2. 事業活動計算書の状況

(単位;千円、未満切捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	889,020	880,792	858,293	837,336	837,391
サービス活動費用計	846,074	820,059	800,421	791,323	789,374
サービス活動増減差額	42,946	60,732	57,871	46,013	48,017
経常増減差額	43,466	60,702	57,864	45,690	48,172
特別増減差額	△ 22,243	△ 21,214	△ 27,216	△ 19,810	△ 29,268
当期活動増減差額	21,222	39,488	30,648	25,879	18,904

注1：サービス活動収益は、短期入所や認知症デイなどの収入増により前年比で8,228千円(0.9%)の増収となった。

注2：サービス活動費用は、3月度の未払費用計上（人件費）が12,146千円あるも自然増や介護職員等特定処遇改善手当などの支給により全体で26,015千円(3.2%)の増加となった。注3：サービス活動増減差額は、昨年比で17,236千円(29.3%)減少となった。

3. 設備投資及び積立金の状況

・固定資産取得等

非常用発電機6,386千円、包括支援センター車両更新770千円、厨房配膳車239千円、入浴設備（浴槽2台、フラット担架2台、ストレッチャー2台）9,288千円、タイムレコーダー121千円、厨房冷蔵庫550千円、移乗サポートロボット640千円

・高額修繕等

2階バルコニー引き戸修理183千円、厨房冷蔵庫修理180千円、給水ポンプユニット修理1,341千円、エアコン室内機修理117千円、厨房排水管修理115千円、天井雨漏り修理150千円、給湯器修理107千円、

4. 借入金及び借入償還の状況

・借入金：新規借入なし

・当期償還金10,176千円、年度末残高100,475千円

Ⅲ. 対処すべき課題

1. 建物外壁の塗装工事（1999年建物全面改築）
2. 業務の効率化や円滑化等のため介護記録ソフト等の見直し
3. 特養の居住環境の整備や多床室についてプライバシー確保のための改修等
4. 老朽化した浴槽の更新

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分	2019年度	2018年度	
入居者数	男	31人	29人
	女	76人	77人
	計	107人	106人
利用日数	男	10,881日	10,686日
	女	27,922日	27,676日
	計	38,803日	38,362日
平均入居期間	男	4.0年	4.1年
	女	3.5年	3.6年
	計	3.7年	3.7年
最長入居期間	男	18.1年	17.1年
	女	22.6年	21.6年

区分	2019年度	2018年度	
平均年齢	男	79.2才	78.3才
	女	88.5才	88.3才
	計	85.8才	85.7才
最高年齢	男	97.0才	100.5才
	女	101.8才	103.0才
最低年齢	男	51.5才	63.2才
	女	70.1才	65.2才
出身地域	圏内	90人	86人
	圏外	14人	14人
	県外	3人	6人
平均介護度	3.59	3.65	

区分	2019年度	2018年度	
新入居者数	男	15人	11人
	女	32人	29人
	計	47人	40人
退居者数	男	13人	10人
	女	33人	28人
	計	46人	38人
入院者数	男	9人	12人
	女	15人	23人
	計	24人	35人
入院日数	男	136日	270日
	女	340日	402日
	計	476日	672日

入居者の介護度区分

区分	2019年度	2018年度
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	2人	7人
要介護度2	1人	9人
要介護度3	23人	29人
要介護度4	9人	30人
要介護度5	12人	31人

入居前住居

区分	2019年度	2018年度
自宅	27人	27人
病院	6人	6人
老健施設	1人	3人
療養型	0人	0人
グループホーム	3人	1人
他施設	10人	3人

退居者内訳

区分	2019年度	2018年度
死亡	30人	29人
帰宅	0人	1人
病院へ転出	7人	8人
他施設へ転出	9人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	278	317	293	296	307	290	332	317	321	335	319	274	3,679人	3,507人
	平均人数	9.3	10.2	9.8	9.5	9.9	9.7	10.7	10.6	10.4	10.8	11	8.8	10.1人	9.6人
通所介護事業(一般型)	利用延人数	917	881	821	919	868	867	899	842	824	779	804	908	10,329人	8,920人
	平均人数	30.6	28.4	27.4	30.6	28	28.9	30	28.1	26.6	26.9	27.7	2.5	14.9人	24.6人
	開所日数	30	31	30	30	31	30	30	30	31	29	29	362	693日	363日
通所介護事業(認知症対応型)	利用延人数	279	289	279	300	287	286	282	269	259	221	231	249	3,231人	3,063人
	平均人数	11	11	11	11	11	11	11	10	10	9	9	10	10.4人	9.9人
	開所日数	26	27	25	27	27	25	26	26	26	24	25	26	310日	308日
認知症対応型共同生活介護	利用延人数	510	552	508	558	558	540	554	510	542	555	513	558	6,458人	6,456人
	平均人数	17	18	17	18	18	18	18	17	17	18	18	18	17.7人	17.7人
訪問介護事業	訪問回数	462	472	429	464	445	442	499	465	473	425	423	456	5,455件	5,252件
	訪問延時間	417.6	438.6	381.6	424	388.2	389.2	427.3	391.1	408	371	369	393	4,799時間	4,877時間
居宅介護支援事業	作成件数	211	211	210	211	191	201	206	207	201	206	200	205.5	2,461件	2,560件
地域包括支援センター事業	総合相談件数	1,028	1,057	919	1,236	1,228	1,217	1,242	1,046	1,216	1,133	1,080	1,169	13,571件	11,636件
	予防支援件数	207	213	211	225	215	228	231	233	242	241	239	242	2,727件	2,401件
障がい者短期入所事業	利用人数	16	16	16	14	17	18	6	13	16	13	14	9	168人	237人
障がい者居宅介護事業	訪問延時	58.5	62.8	55.8	71.5	56.8	53.5	66.3	62.5	63.5	49.3	38.8	60	699時間	769時間
障がい者同行援護事業	訪問延時	68	59	54.5	64.5	53.5	72	69	71.5	52.5	40	61.5	36	702時間	742時間
障がい者移動支援事業	訪問延時	26.5	25.5	17	29.5	25	25	17	25	16.5	7	10.5	11.5	236時間	301時間
障がい者地域活動支援センター事業	利用延人数	240	245	233	254	241	234	251	235	233	210	195	217	2,788人	2,922人
	平均人数	11	11	12	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10.8人	11.4人
	開所日数	22	23	20	23	22	21	23	21	21	20	20	22	258日	257日
障がい者相談支援事業	相談件数	107	66	123	94	102	112	89	84	75	74	89	84	1,099件	378件
介護タクシー	輸送回数	132	139	128	127	121	120	142	133	136	109	105	115	1,507回	1,936回
持ち帰り弁当	食数	95	111	111	134	111	105	100	106	108	94	73	82	1,230食	1,123食

V職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	5	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	
相談員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	介護職員	41	11	18	4	23	7	4	1	3	2	1	
	看護職員	3	5	1	0	2	5	0	0	1	1	-1	
	機能訓練職員	3	0	1	0	2	0	1	0	0	0	1	
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
医師	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	1	8	1	3	0	5	0	0	0	0	0	0	
小計	60	27	26	10	34	17	5	1	4	3	1	-2	
在宅事業	通所事業等	20	12	4	4	16	8	0	0	0	0	0	0
	訪問介護	5	11	1	0	4	11	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	5	1	0	0	5	1	1	0	0	1	1	-1
	包括支援	8	0	1	0	7	0	1	0	0	0	1	0
	グループホーム	13	3	4	0	9	3	0	0	0	0	0	0
小計	51	27	10	4	41	23	2	0	0	1	2	-1	
合計	111	54	36	14	75	40	7	1	4	4	3	-3	

*現員は2020年3月31日現在 就退職は2019年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	9件	295,000円
遺族	0件	0円
在宅	4件	550,000円
一般	44件	718,831円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	57件	1,563,831円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）御殿場アドナイ館 2019年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

平日の朝の礼拝を御殿場教会のご奉仕や数名の職員が順番で担い、祈りと感謝をもって一日を始められた。また、施設機関紙の発行や法人研修への積極的な参加、十字の園行動規範をサービス基準指針に取り入れ職員への浸透を図るなど、理念の共有、醸成を図り共に生きる地域社会を目指し、一人ひとりを大切にしたいサービスの充実に努めた。

また、「それでアブラハムはその所の名をアドナイ・エレと呼んだ。これにより、人々は今日もなお『主の山に備えあり』と言う。」創世記22章14節。主が備えてくださったこの施設に住む者が、安心して心豊かに生活出来るようにと、入居者のきめ細かな生活支援に努めた。

B. 運営方針について

1. 入居者が明るく楽しく心豊かに生活できるように支援する。

健康体操教室や散歩会を定期的に開催し、また、日頃の入居者とのコミュニケーションや関わりを通じ状態変化等に早期に気付けるよう心掛け、入居者の健康維持、増進に努めた。その他に通院支援、居室配膳、配薬などの日常生活支援サービスの継続とともに、居宅サービスと連携し可能な限りケアハウスでの入居が安心して継続できるよう努めた。

2. 入居者の余暇の充実や入居者同士の互助を促進し生活の質の向上を目指す。

一人で外出困難な方のマンツーマンでの買物送迎の実施や、春夏の遠足の他、季節を感じていただく花見や、外食、映画鑑賞、カラオケ大会など定期的に開催し、入居者同士の親睦を深めながら生活の質の向上を目指した。

3. 職員のソーシャルワーク実践力を高め、入居者の望む暮らしを支えると共に、地域の様々な生活困窮者への支援に務める。

毎月、よろず相談として相談日を設置するとともに、気軽に相談出来るよう職員の資質向上に努めた。また、市の生活保護担当者へ相談しながら受けられる社会資源の連絡調整や入居者の就労サポートを行った。

4. 職員の各専門性の向上とともに、働く意欲、チームワークを高めよう。

毎月他の部署を交えた職員会議を開催し入居者情報などの共有を図った。また、他施設の見学など外部研修に参加し、資質の向上を図った。

5. 入居希望者の増加を図り健全な経営に務める。

市内や近隣地域の医療機関、公的機関、他事業所などへパンフレットを届けながら顔の見える関係づくりに努めた。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

各種の事業について、生活の充実をはかる為に、以下のことに取り組んだ。

1. 利用者の健康で安心した暮らしに向け努める。

健康体操を月2回、談話室で行った。内容として、ラジオ体操及びきぼう体操（呼吸・上肢、下肢、各関節に対する運動など）を実施。また、緊急時の対応や保証人の変更等の確認を行い、10名程度の確認を行うことができた。

2. 生活の質を高めます。

毎月、カラオケや映画の会、親睦会などのレクリエーションを継続して行った。また、春と秋にはドライブ外出を行い、季節を肌で感じながら入居者同士の親睦を深め生活の質の向上を目指した。また、施設の洗濯たみなどがボランティアの機会となり継続して行っていただけた。

3. 入居待機者の確保

入居待機者リストの見直し及び電話にて待機者の現状確認を行った。また、自治体へのパンフレット配布等を行い入居待機者の確保に努めた。その結果新規申込者4名を確保することができた。

B. 利用実績

	ケアハウス
利用定員	30人
利用者延数	10,950人
一日平均利用者数	30人
稼働率、稼働指数	99.7%
稼働日数	366日
単価（一日一人当たり）	5,384円
老人福祉事業収入	58,951千円
職員数（常勤換算）	3.4人

C. 資金収支及び財務状況

1. 資金収支予算達成状況

（単位；千円、未満切捨て）

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	63,115	58,951	52,494	46,858	10,621	12,092
施設整備による収支	2,898	3,851	5,795	7,659	△2,897	△3,807
その他の活動による収支	11,500	9,990	18,052	19,748	△6,552	△9,758
当期資金収支					1,172	△1,473

注：入居一時金の納入、返還の状況によって予算に対し変動があるが、資金収支への影響は、事業活動による収支差額の内950千円、その他活動による収支差額の内△950千円であり当期資金収支差額への影響はない。

2. 事業活動計算書の状況

（単位；千円、未満切捨て）

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	52,426	52,780	53,811	54,570	53,847
サービス活動費用計	43,515	43,078	43,540	45,037	43,550
サービス活動増減差額	8,911	9,702	10,270	9,532	10,297
経常増減差額	8,916	9,639	10,165	9,428	10,140
特別増減差額	△7,517	△7,797	△7,776	△7,641	△7,480
当期活動増減差額	1,399	1,842	2,389	1,787	2,660

3. 設備投資及び積立金の状況

- ・非常用発電機 18,640千円
- ・高額修繕等：給水ポンプ修繕 202千円、ブレーカー修理 108千円、トイレ修理 119千円
- ・積立・取崩等：長期預り金積立資産取崩 9,990千円、長期預り金積立 8,700千円、修繕費積立 3,000千円

4. 借入金及び借入償還の状況

- ・借入金：新規借入なし
- ・当期償還金 5,795千円、元金補助金 2,897千円、年度末残高 0千円

III. 対処すべき課題

1. 要支援や要介護者が年々増加傾向にあり一層の他事業所等との連携強化等が必要
2. 建物外壁の塗装工事（2000年竣工）
3. 各居室設備機器（トイレ、水回り機器）について経年劣化のため更新

IV利用者の状況(2019年度)

施設名 御殿場アドナイ館

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分		2019年度	2018年度
入居者数	男	5人	7人
	女	25人	23人
	計	30人	30人
利用日数	男	2,197日	2,768日
	女	8,783日	8,182日
	計	10,980日	10,950日
平均入居期間	男	6.5年	6.5年
	女	4.6年	4.2年
	計	5.0年	4.7年
最長入居期間	男	13.2年	12.9年
	女	10.7年	9.6年

区分		2019年度	2018年度
平均年齢	男	75.7歳	80.8歳
	女	83.4歳	82.4歳
	計	82.1歳	82.0歳
最高年齢	男	87歳	90歳
	女	91歳	90歳
最低年齢	男	69歳	68歳
	女	51歳	50歳
出身地域	圏内	16人	16人
	圏外	6人	8人
	県外	8人	6人
平均介護度		1.39	1.1

区分		2019年度	2018年度
新入居者数	男	1人	1人
	女	4人	4人
	計	5人	5人
退居者数	男	3人	3人
	女	2人	2人
	計	5人	5人
入院者数	男	3人	5人
	女	3人	2人
	計	6人	7人
入院日数	男	62日	190日
	女	174日	55日
	計	236日	244日

入居者の介護度区分

区分	2019年度	2018年度
自立	21人	16人
要支援	3人	7人
要介護度1	2人	3人
要介護度2	1人	4人
要介護度3	2人	0人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人
重度障害	1人	1人

入居前住居

区分	2019年度	2018年度
自宅	5人	5人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	0人	0人

退居者内訳

区分	2019年度	2018年度
死亡	1人	1人
帰宅	1人	1人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	3人	2人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

実施なし

3.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
	施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
相談員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
	介護職員	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0
合計	6	1	3	0	2	1	1	0	1	0	0	0

*施設長,事務員,栄養士は特養兼務

*現員は2020年3月31日現在 就退職は2019年度内増減

4.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	1件	5,000円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	1件	5,425円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	2件	10,425円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

特別養護老人ホーム 伊豆高原十字の園 2019年度事業報告書

I. 総括

A. 精神的基盤について

礼拝奉仕者の協力で礼拝を守り、また、各部署で始業時等に行動規範を読み合わせ、周知、浸透に努めた。また、法人の理念を理解、実践できるよう、理念の唱和を行うほか、社会福祉フォーラムや同盟研修などのキリスト教福祉に関する研修会に参加し学びを深めた。

B. 運営方針について

1. 安心安全への取り組み；法人、施設の規定類を再確認し、ルールに則った行動で、質の確保、向上に努めた。介護事故について総数は減少、介護保険ソフトによる事故の集計、分析も進め、再発防止にも取り組んでいる。また、秋に発生した台風の被害を受け、今後の災害に関するリスクについても、施設内及び行政や近隣事業所と連絡、協力体制を見直した。
2. 職場環境への取り組み；6S運動（整理、整頓、清潔、清掃、躰、作法）を実施することに加え、あおば社会保険労務士法人を講師に招き、ハラスメント予防に対する研修を行う中で、職員同士で働きやすい職場環境とは何かを考える機会を作り、小グループで目標を立て実践した。
3. 地域に向けた取り組み；対島地域ふるさと協議会と連携して、サロンや認知症カフェなどを開催、月に1度の子ども食堂を立ち上げ、高齢者だけでなく幅広く地域との繋がりを広げ、地域福祉を推進した。

II. 事業計画の達成状況

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設事業

- 1) 生活支援室：安心安全な支援につながるようサービス担当者会議を中心に意見集約し部署間の連携を強め、支援の統一化を図った。また、より良い支援を目指し6S委員会を通じて職場環境の改善に取り組んだ。
- 2) 看護室：本人、家族等の医療に関する意向を適時確認し嘱託医及び他職種と共有、連携して意向に沿った支援を行った。また、褥瘡に対して勉強会で学び予防や処置方法等の知識技術の向上を図った。
- 3) 生活相談室：生活支援室、看護室との連携に注力し、入居利用者及び家族の意向に沿ったサービスを展開することで、家族間、利用者間の関係性の継続や日常生活、看取り期での不安を取り除くなど生活の質を向上することができた。また、地域との関わりとして、近隣にお住まいのボランティアの方々と連携し、敷地内の緑地環境整備や移動図書館の利用支援等を行い、満足度の高いサービスの提供へと繋げることができた。
- 4) 給食室：平和の杜との連携で人員不足を乗り越え、職員個々に目標を設定してスキルアップに取り組んだ。また、業務を見直して味の統一、衛生管理を徹底し、食を通じ利用者の豊かな生活を支えた。
- 5) 事務室：業務を効率化することで他部署のサポートに回ることができ、人件費の削減に繋がったことが収支の黒字化の一因となった。また、研修参加や資格を取得したことで、伊豆地区事務統合に向けての土台を作ることができた。

2. 地域包括支援センター

伊東市地域福祉計画に沿って、多職種との連携だけではなく、今まで関わりの少なかった場所でも包括支援センターの役割を周知することや、地域ケア会議、住民向けの勉強会、居場所の活性化等でネットワークを強め、地域包括ケアシステムの構築に近づいた。

3. 居宅介護支援事業所

- 1) 伊豆高原：勉強会や研修に積極的に参加して知識を増やし、利用者や家族の状況に合わせた迅速な対応を心掛け、在宅で安心して暮らしていけるよう支援することができた。
- 2) ケアプランセンター—碧：最新の制度情報を得る、多職種連携の研修に参加するなど知識の向上に取り組む、また、自治会や民生委員など関係を深め、後見制度など介護保険以外でも必要な情報を利用者提供してサービスの選択肢を広げた。それによって在宅復帰や看取り期の支援など多様なニーズに対応し

、住み慣れた地域で暮らせるよう取り組む事ができた。

4. 短期入所生活介護事業

安全に安心して利用できるよう、利用者一人ひとりの想いを尊重し、居室のレイアウトやレクリエーションなども工夫して満足度を高めた。

5. 通所介護事業所

生活総合機能改善機器の活用で、利用者の意欲、満足度向上の他、研修、勉強会で個々にスキルアップをした結果、利用者・家族に安心して頂けるサービスの提供ができた。

6. 介護予防事業

教室参加者は減少したが、認知症や生活不安のある方を地域包括支援センターに繋げたり、生活支援コーディネーターと協力して新規利用者やボランティアを獲得した。また、参加者へのアンケート調査で事業を見直し、体操だけでなく生活総合機能改善機器の使用や、健康講話等で内容を充実できた。

7. 訪問介護事業

利用者の変化について速やかに部署内や他職種と情報共有を図った。また、統一処遇を見直し、必要な時に必要なサービスの提供に繋げることで満足と信頼を得ることができた。

8. 配食サービス事業

食数は目標を下回ったが、弁当の内容や調理法を工夫して、美味しさ、楽しさ、栄養を届けることができた。また、安否確認を行い、関係機関と連携して利用者の安心を支えた。

9. 生活支援事業

地域住民や関係事業体と連携し、圏域内で高齢者の居場所を2か所増やす等、地域における生活支援体制を充実させることができた。

10. 移送サービス事業

2019年度は介護タクシー担当者不在もあり事業を中止したが、訪問介護職員による乗降介助のみ行った。今後も地域のニーズ、利用料金などの収支を鑑みて再開を検討していく。

B. 利用実績

	介護老人福祉	短期入所	通所介護	訪問介護	居宅介護支援	地域包括
利用定員	90人	10人	27人			
利用者延数	32,395人	3,455人	6,926人	14,683時間	2,972件	14,513件
一日平均利用者数	88.5人	9.4人	22.3人	40.1時間	247.7件	58.8件
稼働率、稼働指数	98.3%	94.4%	82.5%			
稼働日数	366日	366日	311日	366日	12ヶ月	247日
単価(一人一日当たり)	13,835円	13,239円	8,833円	3,524円	14,071円	2,634円
収入(千円) ※	448,177	45,741	61,174	51,741	41,819	38,228
職員数(常勤換算)	60.9人	8.0人	10.0人	11.7人	8.0人	6.8人
	介護タクシー	介護予防	生活支援	配食		事業活動収入 職員数合計
利用定員						
利用者延数	61件	698人				
一日平均利用者数	0.2件					
稼働率、稼働指数						
稼働日数	254日					
単価(一人一日当たり)	1,443円					
収入(千円) ※	88	7,192	6,081	2,767		703,652
職員数(常勤換算)	0.1人	1.9人	1.3人	0.8人		109.5人

※ 収入は介護保険事業収入、障害福祉サービス事業収入

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位：千円、未満切り捨て)

(収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	707,126	703,651	626,064	620,706	81,062	82,945
施設整備による収支	0	133,880	68,490	201,039	△68,490	△67,159
その他活動による収支	500	663	11,496	11,515	△10,996	△10,851
当期資金収支	-	-	-	-	1,576	4,933

☆事業活動収支について

事業活動による収支において、収入実績が当初予算より 3,475,000 円下回ったことは通所介護、訪問介護の利用者数が減少したことが影響した。また、支出が 5,358,000 円減となった要因は、当初見込んでいた介護職員の採用が進まず人件費が減額となったこと、予定していた固定資産（低床ベッド）の購入を次年度へ持ち越したことによるものである。2019 年 12 月に静岡銀行より変動金利で借り入れていた設備資金借入金を事業性個変ミックス証貸に変更することにより、金利を 1.1% から 0.62% に引き下げた。そのため、借換における元金 133,880,000 円を施設整備による収入及び支出に組み入れた。

2. 事業活動計算書の状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	2019 年	2018 年	2017 年	2016 年	2015 年
サービス活動収益計	701,079	690,491	685,663	674,518	679,953
サービス活動費用計	665,317	661,063	671,267	664,116	665,176
サービス活動増減差額	35,761	29,428	14,396	10,403	14,776
経常増減差額	31,645	5,582	4,287	△719	7,734
特別増減差額	0	15,503	△3,253	△9,246	△8,751
当期活動増減差額	31,645	21,086	1,034	△9,965	△1,016

☆サービス活動収支について

サービス活動による収支において、収益が前年度より 10,588,000 円増となったことは、伊東市からの委託事業として生活支援体制整備事業を受託したこと、2019 年 10 月に消費増税による報酬改定が影響している。経常増減差額において前年度との差額は、借入金の借り換えを実行した際に生じた支払利息を計上しているため、当年度との差額が生じた。また、特別増減差額も同様に、前年度の借り換え時に生じた支払利息を法人より繰入金収益として計上しているためである。

3. 設備投資及び積立の状況

- ・設備投資：シャワーストレッチャー（312,390 円）
- ・積立：該当なし

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・設備資金借入金元金償還：198,008,000 円（内、融資商品切り替えによる元金償還 133,880,000 円）
- ・利子：4,727,141 円、借入金年度末残高：692,260,000 円

*2019 年 12 月、静岡銀行細江支店より借り入れていた設備資金借入金の融資形態を変動金利（1.1%）から事業性個変ミックス証貸（0.62%）に変更するため、融資商品の切り替えを行った。

III. 対処すべき課題

1. 職員一人ひとりが福祉に携わる職員として求められるスキル、能力を向上させる必要がある。
2. 働きやすい職場環境を整え、離職防止と人材採用に努める。
3. 運営、経営の合理化、簡略化に取り組む。
4. 伊東市南部の「対島地域ふるさと協議会」や地域住民とともに、地域共生社会を推進していく。

IV. 利用者の状況(2019年度)

施設名 伊豆高原十字の園

1.施設利用の状況

区分		2019年	2018年
入居者数	男	15人	16人
	女	75人	74人
	計	90人	90人
利用日数	男	5,737日	6148日
	女	26,658日	26302日
	計	32,395日	32450日
平均入居期間	男	2年6ヶ月	2年10ヶ月
	女	3年9ヶ月	4年0ヶ月
	計	3年6ヶ月	3年10ヶ月
最長入居期間	男	6年3ヶ月	7年10ヶ月
	女	10年10ヶ月	24年0ヶ月

区分		2019年	2018年
平均年齢	男	83.5才	81.7歳
	女	89.6才	89.5歳
	計	88.5才	88.0歳
最高年齢	男	96才	100歳
	女	107才	106歳
最低年齢	男	70才	69歳
	女	66才	65歳
出身地域	圏内	84人	85人
	圏外	3人	3人
	県外	3人	2人
平均介護度		4.0	3.8

区分		2019年	2018年
新入居者数	男	6人	1人
	女	20人	13人
	計	26人	14人
退居者数	男	7人	3人
	女	19人	9人
	計	26人	12人
入院者数	男	5人	3人
	女	5人	5人
	計	10人	8人
入院日数	男	162日	105日
	女	61日	169日
	計	223日	274日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	2人	3人
要介護度2	4人	6人
要介護度3	22人	29人
要介護度4	22人	18人
要介護度5	40人	34人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	6人	4人
病院	1人	0人
老健施設	11人	9人
療養型	0人	0人
グループホーム	5人	0人
他施設	3人	1人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	24人	12人
帰宅	1人	0人
病院へ転出	1人	0人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
		短期入所生活介護事業	利用延人数	269	273	277	282	302	297	312	297	303	287		
	平均人数	9	9	9	9	10	10	10	10	10	9	10	9	9.4人	9.4人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	365日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	567	587	552	598	604	575	589	606	575	543	578	552	6,926人	6,977人
	月平均人数	22	22	22	22	22	23	22	23	22	23	23	21	22.3人	23人
	開所日数	26	27	25	27	27	25	27	26	26	22	24	25	26	311日
訪問介護事業	訪問回数	1348	1418	1188	1451	1421	1325	1395	1299	1616	1293	1232	1349	16,335回	19,438回
	訪問延時	1244	1308	1188	1312	1269	1190	1247	1189	1222	1132	1158	1224	14,683時	17,040時
包括支援センター	相談件数	3580	3231	2730	2952	2549	2811	2751	2552	2885	2734	2517	2631	33,923件	31,187件
	予防計画件数	163	158	158	161	164	161	164	165	164	159	158	158	1,933件	2,010件
居宅介護支援事業	作成件数	236	234	235	244	250	245	252	248	254	255	264	255	2,972件	2,679件
身障訪問介護事業	訪問回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	12回	192回
配食サービス	食数	391	384	318	328	306	266	291	271	278	276	252	282	3,643食	5,228食
介護タクシー	輸送回数	8	4	8	6	4	4	6	2	6	4	4	5	61回	1,228回

V職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	4	2	2	1	2	1	1	0	0	0	1	0	
相談員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
介護支援専門員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	40	10	20	3	20	7	2	3	1	1	0	0
	看護職員	4	2	0	0	4	2	4	3	3	1	1	1
機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	4	6	1	4	3	2	1	4	1	2	0	1	
医師	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	8	0	5	0	3	0	0	0	0	0	0	
小計	57	30	26	15	31	15	8	10	5	4	2	2	
在宅事業	通所事業等	6	6	1	2	5	4	1	2	2	3	-1	-1
	訪問介護	5	23	0	0	5	23	0	0	0	0	-1	-2
	居宅支援	8	0	2	0	6	0	2	0	1	0	1	0
	地域包括	6	1	1	0	5	1	1	0	0	0	1	0
	介護予防	1	4	0	0	1	4	0	0	0	0	0	-1
	地域支援	1	3	1	0	0	3	0	3	0	0	0	3
小計	27	37	5	2	22	35	4	5	3	3	0	-1	
合計	84	67	31	17	53	50	12	15	8	7	2	1	

*現員は2020年3月31日現在
就退職は2019年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	3件	140,000円
入居者家族	6件	180,000円
遺族	4件	260,000円
在宅	8件	166,399円
一般	20件	174,910円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	41件	921,309円
その他寄付金収入		
寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）アドナイ館 2019年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

2019年度は、6月に施設長の交代があり、新たな組織体制で臨んだが、これまで同様に毎月一回職員勉強会に合わせて職員礼拝を実施した。

行動規範、ローズンゲンの読み合わせを行った。

B. 運営方針について

1. ケアハウス：入居者が自分らしい生活を出来るだけ長く「安心、安全」で暮らし続けられるように環境整備、相談支援を行った。
2. デイサービス：利用者の在宅生活を見据えたサービス内容の提供に努め、利用者・家族の支援を行った。
3. 毎月の職員勉強会を実施。担当職員が工夫を凝らし意欲的に取り組むことができた。外部研修への参加の機会が乏しかった。
4. 浜松地区3施設合同の委員会活動に取り組み一体感を図った。3施設相談員会議を定例化し入居者の情報共有を図り、ニーズに応じた施設移動に取り組むことができた。

II. 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業の目標達成状況

1. ケアハウス部門

- ① 長年の懸案となっていた2階乾燥機移設を実施し入居者より安堵の声がきかれた。
課題になっていた箇所の修理が実施できたが、今年度計画に挙げる女子浴室用の湯沸かし器の交換については同じく計画していたボイラー更新と絡めて小型給湯器の導入を検討しているが結論に至っていない。
- ② 個別面接を定例化する計画だったが、入退去者やその時々への対応に追われ計画的にできなかった。後半月1回の開催を定例化し、情報共有の場を作った。
- ③ 担当者不明確のままであったことと三施設統合によるシステム変更の動向を見ていたため進展なし。

2. デイサービス部門

- ① 目的作りとして、個々で取り組める制作物の充実化を図り、利用者に合った作業目的を伝える事でやりがいや、意欲向上が図れるようにした。
リハビリの選択制にし、利用者が参加したいものを自身で決めて参加してもらった。
- ② 市民ふれあい広場に参加し、地域との交流を図った。家族会を実施し、日頃の介護でお困りの事をお話ししたり、デイサービスでの様子をお伝えし大切な関係性の維持を図った。
- ③ 備品購入の検討は行ったが、上手く進まず。総合見学会に向けて環境整備を行った。
ぶらすワンの使用していない介護支援浴槽を経年劣化で使用していなかったものと交換できた。
- ④ 連絡ノートのちょうじゅ導入を行い、午前午後共に、30分以上の記録時間の短縮が出来、業務の効率化、利用者との関わる時間を多く作れるようになった。

3. 調理部門

- ① 年度当初より欠員が続き3～5月は、外注食(弁当)の提供となり、満足してもらえる提供ができなかった。
9月に給食懇談会を開催した。事前にアンケートを取り答えたが、その場でも活発に意見や質問が多くでた。頂いた意見で、通院以外の理由でも朝食を認めてほしい事について改善を行った。
- ② HACCP義務化に向け整備することは、欠員が続き整備することができなかった。
- ③ ブラストチラー購入を計画したが、今導入しても使い方を浸透させる余裕がなく来年度に持ち越しとした。

B. 利用実績

(職員数は2019年度末月現在の数とする)

	ケアハウス	通所介護	事業活動収入
利用定員	50人	30人	
利用者延数	18,300人	7,239人	
1日平均利用者数	50人	23.3人	
稼働率、稼働指数	100%	77.8%	
稼働日数	366日	310日	
単価(一人一日当たり)	5,429円	9,324円	
老人福祉・介護保険事業収入	99,353千円	67,497千円	173,268千円
職員数(常勤換算)	11.4人	12.4人	23.8人

C. 資金収支、財務状況、

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	166,746	173,268	150,660	151,078	16,086	22,190
施設整備による収支	0	0	10,271	8,103	△10,271	△8,103
その他活動による収支	2,700	4,176	7,870	19,106	△5,170	△14,929
当期資金収支					645	△842

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・事業活動による収支：収入6,522千円増(入居一時金を長期預り金へ科目変更したため帳簿上8,359千円増。通所介護が目標未達3,092千円減)。支出1,453千円減(3月勤務実績を加味し3,225千円増、退居者への管理費返還2,070千円増、修繕見直し3,370千円減)。
- ・施設整備による収支：支出2,166千円減。固定資産取得内容見直ししたため。
- ・その他活動による収支：収入1,476千円増。退居者へ預り金返還のため取崩収入。支出11,236千円増(入居一時金を長期預り金積立へ振替し9,236千円増。借入金返済額2,000千円増)。

2. 事業活動計算書の状況

(単位；千円、未満切り捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	162,785	160,181	163,923	157,821	157,971
サービス活動費用計	153,165	150,688	151,731	154,890	162,077
サービス活動増減差額	9,620	9,493	12,192	2,931	△4,105
経常増減差額	11,160	10,918	12,856	3,594	△2,839
特別増減差額	△5,180	△2,517	△3,069	△2,730	△11,008
当期活動増減差額	5,980	8,401	9,787	864	△13,847

(2018年との差額が大きい要因)

- ・特別増減差額が大きく増えている要因について、本部拠点への繰入額が増えたため。

3. 設備投資及び積立資産の状況

- ・設備投資：デイ乾燥機885千円、ボイラー及びプラストチラーは次年度に対処する。
- ・積立金：長期預り金取崩3,474千円(退居者精算)
長期預り金積立8,100千円、設備整備積立1,550千円

4. 借入金及び借入金償還の状況

- ・元金償還：6,000千円、支払利子144千円、年度末残高18,000千円

III. 対処すべき課題

- ・ハウスと厨房職員の意識統一と連携
- ・設備投資：ボイラー更新、プラストチラー購入、防火扉修理
- ・建物老朽化による修繕計画の作成

1.施設利用の状況

区分		2019年	2018年
入居者数	男	16人	14人
	女	34人	36人
	計	50人	50人
利用日数	男	5,840日	5,110日
	女	12,410日	13,104日
	計	18,250日	18,214日
平均入居期間	男	6.7年	6.6年
	女	9.0年	9.4年
	計	7.9年	8.6年
最長入居期間	男	27年	26年
	女	27年	26年

区分		2019年	2018年
平均年齢	男	80.8歳	79.6歳
	女	83.0歳	82.9歳
	計	81.9歳	82歳
最高年齢	男	94歳	93歳
	女	97歳	96歳
最低年齢	男	48歳	47歳
	女	58歳	57歳
出身地域	圏内	36人	35人
	圏外	8人	9人
	県外	6人	6人
平均介護度		1.4	1.4

アドナイ館

区分		2019年	2018年
新入居者数	男	2人	3人
	女	3人	5人
	計	5人	8人
退居者数	男	1人	1人
	女	6人	7人
	計	7人	8人
入院者数	男	3人	2人
	女	5人	8人
	計	8人	10人
入院日数	男	194日	5日
	女	187日	305日
	計	381日	310日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	26人	27人
要支援	13人	10人
要介護度1	7人	9人
要介護度2	3人	3人
要介護度3	1人	1人
要介護度4	0人	0人
要介護度5	0人	0人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	1人	7人
病院	1人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	3人	1人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	0人	0人
帰宅	0人	2人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	7人	5人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
		通所介護事業(一般型)	利用延人数	598	631	581	641	653	608	649	581	583	549	583	582
	月平均人数	23.0	23.4	23.2	23.7	24.2	24.3	24.0	22.3	23.3	22.9	23.3	22.4	23.4人	22.7人
	開所日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310日	308日

V職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	増加	減少
施設長	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
事務員	1	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0
相談員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	1	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0
	看護職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
調理師・員	4	2	0	0	3	3	2	1	3	0	0	1
医師	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	3	0	1	0	1	0	1	0	0
小計		9	4	3	3	6	6	3	2	5	1	1
在宅事業	通所事業等	7	11	3	2	5	8	0	5	0	3	2
	訪問介護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	7	11	3	2	5	8	0	5	0	3	2
合計		16	15	6	5	11	14	1	5	1	3	2

* 現員は2020年3月31日

就退職は2019年度内増減

VI寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	17件	600,000円
入居者家族	0件	0円
遺族	1件	200,000円
在宅	0件	0円
一般	26件	285,100円
業者	0件	0円
職員	1件	5,000円
役員	2件	505,000円
合計	47件	1,595,100円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

松崎十字の園・オリブ 2019年度事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人理念等の職員の理解に向けて、施設長としては礼拝時に、ローズンゲンの聖句を理念や行動規範に結び付けての奨励となるような内容に心がけてきた。松崎教会、下田教会の牧師のご協力を得ながら、月曜から金曜日までの礼拝を行う事ができ、協力して下さる牧師は、法人の歩み、職員の働き、利用者の健康等に祈りを持って礼拝を行って下さった。感謝である。

新職員の採用時のオリエンテーションでは、聴く者に合わせて一人ひとりと会話しながら、法人の成り立ちや施設の始まり、理念について伝えている。

十字の園行動規範については、理事長がハンドブックを作成され、各職員の名刺と共に配布するよう指示があり実行をした。行動規範の意識付として主任会議等で唱和している。また、行動規範の内容が具体的な行動・働きになるようにチェックリスト「イエスから未来のイエスへ」を施設長が作成し、課長・主任に配り今後のサービス基準指針の見直しの基にする事が出来た。

B. 運営方針 みんなが笑っていただける施設を目指します。

1. 人材育成に取り組む。各主任は、人材育成の為の企画を行い、実行する。

- ・自己評価する中で職員が向上したい事に費用補助を出し、主任との面接において伸ばす事を企画したが施設長と主任達との間に温度差があり企画倒れであった。
- ・各職場で、勉強会を実施しレベル向上を図っている所はあるが、個々に働きかける研修にならず、職員一人ひとりに合わせたOJTでの学びは、業務の忙しさもあって難しかった。
- ・施設研修委員会を中心に階層別研修を行っているが、その中にコミュニケーションについて学ぶ機会を設けている。しかし職員の業務に対する姿勢などに課題があり、コミュニケーションレベルの向上は、基礎力向上と合わせて継続していくしかないと思われている。

2. 働く環境を整備します。

- ・昨年度末から介助員の増員を考え、介護職の直接利用者への関わり以外の所を担い、すぎの子作業所の洗濯業務の無い曜日に関わっている。給食職員の欠員解消で、給食に関わる業務の見直しを行った。伊豆地区の事務統合に向けて10月から担当の稲葉課長が動きだし、松崎の現金以外のデータの入力を行っている。
- ・ITCの補助金を活用し眠りスキャンを導入して、看取りの利用者の身体状態の把握に努める事などを試みている。ただその対象者が少なく、WIFIの不具合もあって稼働率が悪い。車輛については、リフトカーが急に不良になり、福祉車両の助成申請をする中で新車を導入する事が出来た。新規の超低床ベッド等の購入を事業計画に入れていたが、年度始まりから特養の入院増で会計的に厳しさが予測され、事業計画に上げた物品の購入は、年度後半で収入状況を見て判断したが多くは、次年度に先送りした。
- ・施設の5S委員会が主体的に活動し、ワックスがけ等の環境整備に関わり、感染症等についても感染委員会が勉強会を行い、安心安全な環境づくりに寄与した。設備整備等のチェックリストは昨年作成し、中長期計画を立てているが、その前から台風や経年劣化で修繕等が増えている。暑い夏が予測される中で、マナのエアコン、厨房内のエアコン増設については実施した。経年劣化等で改修の必要な所の見直し等を行い、法人に次年度の修繕費の長期借入金の相談を行い、次年度実施の道筋をつけた。
- ・新卒者の採用は絶望的な状況であるが、職員の紹介や地域にある他の施設の待遇の悪化等で9月、10月当たりに応募が増え、何とか欠員の補充が出来ている。しかし、その中の多くがパート希望で夜勤対応に対しては、課長等が入る事でやりくりをしている。また、職員の病気怪我の入院等が後半あり、人材不足について、法人に他施設からの異動の検討を依頼している。

II. 運営目標・事業計画

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 介護老人福祉施設 松崎十字の園

(1) 介護

- ①入所施設特有の利用者との慣れや関係性といったものから言葉や態度の乱れがあるが、それが常態化しないよう「第三者の目」を意識して丁寧な介護を実践。乱れを正すことをユニット会議やカンファレンス等に取り入れたことで職員間のコミュニケーションが向上し、チームワークを高めることができた。
- ②介護の標準化のために新人向けマニュアルやサービス基準指針の確認、見直しの準備を進めたが、年度中の退職者及び体調不良による長期休職者により人員が不足し、標準化には取り組めなかった。職場環境の見直しのために、全体会議を通じて、物品、備品の整理整頓、修理、補充などの呼びかけを行い環境の改善を行った。
- ③認知症実践者研修受講者による伝達講習を行い、専用の書式を活用して各ユニットで実践した。
- ④介護職員と介助員の業務の見直しを行ったが介助員、介護職員とも人員が減っており、利用者とのゆとりと関わる時間は持つことができていない。

(2) 看護

- ①看取り介護にて3名の方が永眠。入院は15名だが、1名の方が4回（総胆管結石の手術）、1名は2回（誤嚥性肺炎）、1名入院中に死亡、1名は他施設へ移り、入退所は少なかった。利用者の状態変化について家族や特養各部署と連携を密にし、常に声掛けや確認など行う事で生活を支えることが出来た。
- ②勉強会等は必要に応じて開催したが業務体制が厳しく、誰もが参加できるように、時間帯の見直し等が必要と思われる。
- ③職員の健康については、職員健康診断結果が出た後、要受診者からは、受診の報告を受け、健康指導を行っている。しかし、身体面より精神面でのバランスを崩すことから、勤務できない人が増えており、メンタルヘルスの専門家等のストレスへの手だてが必要だと感じる。

(3) 相談員

- ①利用者一人ひとりの楽しみをユニット職員と共に考えつつ、ご家族にも相談して計画を立てるにあたり、ケアマネや看護など関係部署とも連携して寄り添う支援ができた。
- ②今年度は4名死亡退所。1名は伊豆高原十字の園に転籍した。新入所は、関係部署とも連携して退所から中4日で完了、円滑に行えた。

(4) 施設介護支援専門員

- ①買い物や外出の希望などはプランに取り入れ実現することはできているが、利用者の全ての希望に沿う事は出来なかった。また、ご本人やご家族の言葉をできるだけ拾うよう努めているが、訴えの無い方に関しては推測をしながらのプラン作成となり、毎日の生活で不快な思いがないようにプラン作成を心がけた。利用者の望む活動ということまでは結び付けられなかった。
- ②今年度は入退所が5名と動きが少なく、待機者も50名を超える結果となっている。来年度以降も自他施設の在宅ケアマネと連携をとり対応していきたい。相談職も人材が不足している中で、資格取得や有資格者の再研修受講を施設全体で考えていく必要がある。

(5) 給食(障害施設と共通)

- ①食中毒0件は更新中。手洗いの勉強会も行い、個人目標に1分間手洗いを入れる職員がいるなど個々が意識を高く持っており、ユニットを回る時には食前の手拭きを促し、利用者も消毒に協力的な方が多かった。
- ②年間で18回の行事食、3回のイベント(夕涼み・おやつバイキング・餅つき)の他に職員の研修の一環で、各ユニットでオヤツやご飯をつくる行事を立案・実行し、計7回の行事計画を行った。目先が変わることで、利用者だけでなく、職員も喜んでくれた。新たなことにもチャレンジしていき、自ら発信していける機会を継続して作っていきたい。
- ③熱海支部、下田支部と2か所の衛生講習に参加し、新しい情報の入手や食中毒を予防すべく、これまでの

事例等を勉強した。給食室での勉強会と施設全体の勉強会にて伝達講習を行った。厨房内の掃除は毎日、週に1回、月に1回等項目によって決まっているが、決まっていないところや細かいところの掃除が行き届かない面もあり、掃除に長けている職員に毎月気になるところを会議であげてもらい、次の会議までの間にみんなで意識してきれいにするように心がけた。

- ④毎月の給食費を予算の±5%に収まるように心がけ、予算オーバーは3回で、後は予算内には収まった。2月までの特養平均98%、オリブ平均95.4%であった。
- ⑤年間継続して行事食を中心に、施設の食事写真を掲示紹介できた。途切れずに継続できたことは一つの評価と思っている。一方的な掲示だが給食と面会者の方をつなぐ一つのツールでもあり、施設の食事(食べることそのものでも)に少しでも興味をもっていただけるようなアプローチは今後も続けて行きたい。

(6) 事務

- ①伊豆地区事務統合について各拠点と連絡を取り合い作業は進めたが、体制の確立までは至らなかった。
- ②予算に対し、突発的な修繕出費、人の動きに対して把握できず人件費増と当初の計画通りに徹底することができなかった。

2. 短期入所生活介護事業

- ①夜間、居室内での転倒リスクに対し椅子やポータブルトイレの位置を利用者に合わせて設定している。また、事故防止強化として転倒高リスク者に対し、ベッド横にマットを置くなどして事故予防を心がけた結果、昨年に比べ事故が減少した。
- ②排便の有無や持参薬の確認、発熱やボディチェック等で普段と様子が違っている時など、看護職とも今まで以上に連携を深め、速やかに家族に連絡して病院受診等のアドバイスを行った。

3. 通所介護事業

- ①認知症へのアプローチとしてユマニチュードを取り入れ、利用者の個別支援ができるよう職員同士で意見交換しながら進め、それぞれの得意分野で力を発揮できた。
- ②外部の事業所との交換研修を立案し、今年度は当事業所の職員二名が実習し、他事業所の職員の実習は無かった。実習によって得られたものは、初めての場所、初対面の利用者、一緒に働いた事のない職員という慣れない環境で、これまでの自身のスキルをどこまで発揮できるのかを知る事が出来た。また、自身が勤務する事業所では忘れてしまっている緊張感を持つことが出来た。
- ③職員の育成として利用者の生活リハビリを継続して行う事に取り組んだが、年度前半に職員2名が別部署に異動し、その後の充足がなく利用者の少ない日や職員配置に余裕のある日だけの実施に留まった。

4. 訪問介護事業

- ①利用者の生活上の問題について迅速に居宅事業所や関係機関と連絡を取り合うことで情報の共有、適切なサービスの提供ができ、在宅生活の継続ができた。また、高齢者については介護予防も含め15名の利用者数でスタートしたが、今年度は死亡、入所が多く、3月末時点で11名まで減少したが、新規で3名契約(障がい1名、高齢2名)した。

5. 居宅介護支援事業

- ①担当者会議やモニタリングで本人や家族の意思確認をすることができ、介護保険サービスだけでなく、社協、シルバー人材センター、配食サービス等を組み込んだプランを作成することによって、在宅利用者が住み慣れた地域で生活を続けていけるよう取り組むことができた。
- ②サービス事業所との連携は、提供票を基本手渡しとし、なるべく事業所に足を運び顔の見える関係性の構築に努めた。その結果サービス調整、情報の共有等がスムーズにいった。利用者・家族・事業所からの連絡・相談については、出来るだけ早めの対応に心掛け実行した。
- ③事業所を引き継いだ時点で23件と1年かけて35件を目標にしていたが毎月2件程度の新規(区分変更もあり)依頼があり、半年で目標を達成できた。

6. 障害者支援施設 オリブ

(1) 施設支援

- ①オリブの利用者は環境の変化に敏感で、年度初めから職員の入退職、異動等が多くあったが、不安をなるべく軽減できるよう配慮した支援を行った。年度中に日勤職員の補充もあったことから中止していた日中活動も徐々に実施できたことで、利用者への個別対応の時間を増やすことができ、利用者および職員の笑顔を引き出した。
- ②利用者一人ひとりに合った具体的な支援内容については改善の余地があるものの、それぞれの個別支援計画を作成し、実施することができた。
- ③内部研修への参加を促したが、障がいに関する研修はほとんど実施できなかった。

(2) 生活介護

- ①新規利用者1名を就労継続支援B型（ワークショップマナ）より受け入れた。長年作業所へ通っていた利用者の生活介護への移行をスムーズに行うために、状態を把握して生活パターンを大きく変えないよう支援をした。稼働率については、2018年度58.5%（入所、通所を合わせた平均）、2019年度は59.9%であった。
- ②生活介護は、送迎範囲が広く、家族送迎や時間を調整することで対応してきたが、曜日により通所の車両を借りることで対応できた。下期は新車両が入ったので現在は調整なしで送迎が可能となった。
- ③在宅者の個別支援計画は、利用者の希望等を聴きながら支援計画を更新中である。また、個別支援計画の更新時期が全員同じ時期のため、更新の負担が多く、きめ細やかな更新ができない現状を踏まえ、更新時期をずらしていく試みを次年度は実施したい。

(3) 看護

- ①看取り介護で2名が永眠された。その内1名は、疎遠になっていた子供達に連絡し、共に過ごす時間がとれるようにサポートした。1月末に感染胃腸炎の疑い2名あったが感染拡大にはならなかった。今後も疾病についての勉強会や一人ひとりの障がいや老化に伴う身体面の変化など、情報共有しサポートしていく。

(4) 機能訓練

- ①リハビリテーション加算を根拠に年4回のカンファレンスを実施し、各職種の情報を得ながらその内容を反映し個別リハを提供している。車椅子に関する修理・新規作製計画やベッド寝具の更新等実施対応し、各利用者の生活環境の向上を中心に支援している。

7. 身障短期入所事業

- ①今年度、新規利用者4名（内2名の継続的利用が見込まれる）稼働率は105%枠を使い新規を積極的に受け入れた。新規利用者は入所待機者になる可能性も高いので、待機者の開拓と現状把握の為、今後も積極的に受け入れを行いたい。月の平均利用率107.4%であった。
- ②定員超過105%枠を使い利用者受け入れを行う際は、個々の送迎距離が長いので特に入退時の組み合わせを調整、工夫する必要がある対応した。
- ③在宅生活維持の為の支援計画は、更新作成中である。

8. 障害者相談支援

- ①地域生活支援拠点等の開設は10月の賀茂地区自立支援協議会の全体・運営会でオリブが行う事で承認された。2020年4月から開始する予定であったがコロナウイルスに関連し、3月に行われる予定であった自立支援協議会・全体会が中止となり、話し合いも持たれていない。今後、市町との契約についても交わっていない状況だが、地域生活支援拠点開始に向け、利用者台帳の土台作り等の整備を開始する予定でいる。
- ②職員2名が無事研修を終え、業務についている。下期の研修については、高次脳機能障害と地域移行部会の研修を受けている。
- ③特定事業所加算算定について県・町に確認していった結果、算定条件のハードルが高く、算定は断念することとした。

- ④高次脳機能障害賀茂圏域拠点の相談支援は、専門家会議や研修に参加し、2020年度については継続することを決めている。2021年度については、1年間様子を確認し、再度継続の確認を行う。
- ⑤2019年度においても月平均1名の新規利用者の受け入れを達成している。次年度においても、新規受け入れを継続していき、利用者・家族、お一人おひとりのニーズに答えられるように成長していきたい。

9. 障害者ヘルパー事業

- ①障害者については変動なく今年度9名をサポートし、利用者の思いや要求は、日々変化する中、相談員と相談しながら対応している。

10. 就労継続支援B型事業所（ワークショップマナ）

- ①稼働率は、概ね良好で欠席は、少なかった。昼休みには、女性利用者も一緒になってウォーキングやサッカーをする様子が見られ、楽しみ方が広がった。新型コロナの影響でバス遠足が中止になり、お楽しみ会を行ったところ、逆に利用者一人ひとりの絆が深まったように感じられる。
- ②2019年5月1日より佐藤鉄工所での施設外就労を開始。事前に打ち合わせを繰り返し、必要物品等の搬入を行なった。当初は行くことを拒否される利用者もいたが、職員とのコミュニケーションの工夫で、1ヵ月経過した頃には、スムーズに提供できるようになっている。月延にして100人近くの施設外就労を行った。固定メンバーだけでなく、取り組みそうな利用者にも随時参加を試みて来た事で、次年度に繋げていく事が出来た。
- ③施設の外に行く事で、社会の中では通用しない行為（大きな声をだす、道路に飛び出す等）が見えて来て良い経験になった。また、施設に残って作業を行う場合に、以前よりも集中力が増している利用者もいる。施設に残った際の作業プランを新たに組み直した。

B. 利用実績

①松崎十字の園拠点利用実績

	特養	短期	通所
利用定員	50人	9人	25人
利用者延べ数	18,280人	3,587人	4,583人
一日平均利用者数	49.9人	9.8人	18人
稼働率・稼働指数	99.8%	108.9%	72.2%
稼働日数(日)	366	366	254
単価（一人一日当たり）	11,624円	11,246円	9,295円
介護保険事業収入（千円）	212,492	40,340	42,597
職員数(常勤換算)	47.5人		6.2人

	訪問	居宅	事業活動収入計
利用定員			
利用者延べ数	1,411.0時間	396件	
一日平均利用者数	3.8時間		
稼働率・稼働指数			
稼働日数			
単価（一人一日当たり）	4,353円/時	12,977円/件	
介護保険事業収入（千円）	6,142	5,139	312,699
職員数(常勤換算)	2.7人	2人(出向者1名含)	58.1人

②オリブ拠点利用実績

	施設支援生活介護	生活介護	短期	訪問
利用定員	22人	27人	2人	
利用者延べ数	7,890人	5,615人	786人	1,001時間
一日平均利用者数	21.5人	21.7人	21.0人	2.7時間
稼働率・稼働指数	98.0%	80.3%	107.4%	—
稼働日数	366日	259日	366日	366日
単価（一人一日当たり）	6,160円	11,998円	10,233円	2,897円
障害福祉サービス等事業収入（千円）	48,602	67,369	8,035	2,900
職員数(常勤換算)	14.2人			(兼務2.7人)

	相談	就労支援	事業活動収入計
利用定員		20人	
利用者延べ数	3,240件	6,354人	
一日平均利用者数		234人	
稼働率・稼働指数		125%	
稼働日数		254日	
単価（一人一日当たり）	4,195円	9,980円	
障害福祉・就労支援事業収入（千円）	13,592	63,410	205,366
職員数(常勤換算)	2.8人	8.1人	25.1人

(就労支援事業を含む)

C. 資金収支・財務状況

1. 資金収支予算達成状況

①松崎拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	309,511	312,699	298,501	303,514	11,010	9,185
施設整備による収支	5,250	5,250	25,755	26,459	△20,505	△21,209
その他活動による収支	15,120	20,509	5,305	5,298	9,815	15,210
当期資金収支					320	3,187

- ・収入について：当初、利用者の入院等で収入減も予測されたが入退所が少なく、在宅サービスの短期、通所、居宅で安定した稼働率増により当初予算、昨年度に対して収入増の結果であった。
- ・支出について：収入減を予測し、設備備品の購入を抑え、改修箇所も緊急性のあるものに留め、経費節減に努力し助成金活用で車輛等購入した。職員不足と言いつつも人件費率は75%を超えている。

②オリブ拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	200,819	205,362	179,714	178,532	21,105	26,830
施設整備による収支	1,750	1,750	4,465	4,499	△2,715	△2,749
その他活動による収支	100	0	18,046	23,458	△17,946	△23,458
当期資金収支					444	621

- ・収入について：在宅サービスの生活・就労・訪問・相談支援の稼働率増により増収であった。
- ・支出について：松崎拠点同様、設備備品の購入を抑えと経費節減を心がけた。高齢施設併設の為、人件費率は69%の支出になっている。

③ 2 拠点合計

(単位：千円。未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	510,330	518,061	478,215	482,046	32,115	36,015
施設整備による収支	7,000	7,000	30,220	30,958	△23,220	△23,958
その他活動による収支	15,220	20,509	23,351	28,756	△8,131	△8,248
当期資金収支					764	3,808

2. 事業活動計算書の状況

① 松崎拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	306,737	302,839	306,945	304,355	320,852
サービス活動費用計	317,412	308,132	303,776	293,039	309,405
サービス活動増減差額	△10,674	△5,292	31,69	11,316	11,447
経常増減差額	△8,562	△4,065	4,691	10,876	11,184
特別増減差額	15,427	13,285	4,612	△3,608	△634
当期活動増減差額	6,864	9,220	9,303	7,268	10,550

② オリーブ拠点

(単位：千円。未満切り捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	203,919	193,134	188,559	178,546	175,488
サービス活動費用計	181,070	172,087	169,085	171,872	171,730
サービス活動増減差額	22,849	21,046	19,474	6,674	3,758
経常増減差額	24,151	22,290	20,933	7,401	4,457
特別増減差額	△22,925	△21,414	△12,992	△3,902	248
当期活動増減差額	1,225	876	7,941	3,499	4,705

③ 2 拠点合計

(単位：千円。未満切り捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益計	510,656	495,973	495,504	482,901	496,340
サービス活動費用計	498,482	480,219	472,861	464,911	481,135
サービス活動増減差額	12,175	15,754	22,643	17,990	15,205
経常増減差額	15,589	18,225	25,624	18,277	15,641
特別増減差額	△7,498	△8,129	△8,380	△7,510	△386
当期活動増減差額	8,089	10,096	17,244	10,767	15,255

3. 設備投資及び積立の状況

① 松崎拠点

- ・ 固定備品：真空包装機619,200円、まな板殺菌庫210,600円、眠りスキャン203,472円（補助金10万円）
- ・ 修繕・改修：自動ドア544,500円、誘導灯237,600円、回転釜253,000円、非常照明蓄電池交換297,000円
洗濯機モーター交換245,300円、2階雨水対策工事147,960円
- ・ リース：車両 チェアキャブ 3,448,891円（助成金100万）

② オリーブ拠点

- ・ 固定備品：足踏み式空缶圧縮機102,850円（補助金10万円）、施設外就労用車両632,850円
- ・ 修繕・改修：網戸張替139,320円、パン工房空調機347,600円

4. 借入金及び借入金償還の状況

①松崎拠点

・医療福祉機構：元金償還 11,250,000円 利子 573,000円 年度末残高 22,500,000円

②オリブ拠点

・医療福祉機構：元金償還 2,750,000円 利子 141,000円 年度末残高 5,500,000円

③合計

・医療福祉機構：元金償還 14,000,000円 利子 714,000円 年度末残高 28,000,000円

Ⅲ. 対処すべき課題

人材確保

- ・若い職員を含め常勤職員の入職がない事への対応。
- ・有資格者（相談職・看護師・介護士等）の高齢化や退職に伴う事業継続について。

リスク

- ・職員の心身の変化・感染・事故・苦情・設備備品の劣化等において、小さな事でも状況変化を受け止め事との出来る人材作りと迅速に対応する体制作り。

経営

- ・地域環境変化にあった事業運営と戦略の持ち方。（高齢者福祉中心から障がい者福祉との統合）
- ・職員の間力への向上と行動規範の意識付け。
- ・利用者にとって居心地に良い、職員にとって働きやすい魅力ある施設に生まれ変わる事。

IV. 利用者の状況(2019年度)

施設名 松崎十字の園

1.施設利用の状況

区分	2019年	2018年
入居者数	男 9人	9人
	女 41人	41人
	計 50人	50人
利用日数	男 3,290日	3,313日
	女 14,990日	14,700日
	計 18,280日	18,013日
平均入居期間	男 2年2ヵ月	1年4ヵ月
	女 3年4ヵ月	2年11ヵ月
	計 3年2ヵ月	2年8ヵ月
最長入居期間	男 3年5ヵ月	2年4ヵ月
	女 11年11ヵ月	16年11ヵ月

区分	2019年	2018年
平均年齢	男 88.6歳	85.8歳
	女 88.4歳	87.8歳
	計 88.4歳	87.4歳
最高年齢	男 98歳	93歳
	女 99歳	98歳
最低年齢	男 73歳	72歳
	女 71歳	70歳
出身地域	圏内 48人	47人
	圏外 0人	1人
	県外 2人	2人
平均介護度	3.6	3.7

区分	2019年	2018年
新入居者数	男 1人	2人
	女 4人	14人
	計 5人	16人
退居者数	男 1人	3人
	女 4人	13人
	計 5人	16人
入院者数	男 2人	4人
	女 8人	6人
	計 10人	10人
入院日数	男 15日	59日
	女 301日	109日
	計 316日	168日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	0人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	0人	0人
要介護度2	1人	1人
要介護度3	25人	26人
要介護度4	17人	18人
要介護度5	7人	8人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	2人	9人
病院	2人	3人
老健施設	1人	1人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	2人
他施設	0人	1人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	4人	15人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	1人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
短期入所生活介護事業	利用延人数	246	274	284	306	312	286	319	322	316	306	299	317	3,587人	3,604人
	平均人数	8.2	8.8	9.5	9.9	10.1	9.5	10.3	10.7	10.2	9.9	10.3	10.2	9.8人	9.9人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366人	365日
通所介護事業(一般型)	利用延人数	338	377	351	413	387	396	432	386	414	371	358	360	4,583人	4,413人
	月平均人数	16.1	18.0	16.7	18.0	17.6	18.9	19.6	18.4	19.7	18.6	17.9	17.1	18人	17.4人
	開所日数	21	21	21	23	22	21	22	21	21	20	20	21	254日	254日
訪問介護事業	訪問回数	142	152	141	145	125	126	147	133	124	130	124	156	1,645回	1,947回
	訪問延時間	126.5	134.5	121.0	126.0	106.0	108.0	118.0	106.5	115.5	110.5	105.0	133.5	1,411時間	1,627.0時間
居宅介護支援事業(予防)	作成件数	30	31	33	35	37	38	39	41	41	41	42	38	446件	290件

V.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	2	1	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	-1	0
相談員	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	介護職員	21	6	10	0	11	6	0	2	0	1	0	0	1
	看護職員	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
機能訓練職員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	2	7	1	1	1	6	0	1	0	2	0	0	-1	
医師	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	6	0	4	0	2	0	1	0	1	0	0	0	
小計	34	22	15	6	16	15	0	4	1	4	0	0	-1	
在宅事業	通所事業等	4	4	2	2	2	2	0	0	0	0	0	-1	-1
	訪問介護	2	2	0	0	2	2	0	1	1	0	0	-1	1
	居宅支援	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	7	6	3	2	4	4	0	1	1	0	0	-1	-1
合計	41	28	18	8	20	19	0	5	2	4	0	-1	-2	

*現員は2020年度3月31日現在 ()は兼務 就退職は2019年度内増減 1名松崎町へ出向

VI.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	1件	2,000円
在宅	0件	0円
一般	4件	125,000円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	5件	127,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

IV. 利用者の状況(2019年度)

施設名 オリブ

1.施設利用の状況

区分		2019年	2018年
入居者数	男	13人	12人
	女	9人	9人
	計	22人	21人
利用日数	男	4,356日	4,678日
	女	3,514日	3,221日
	計	7,870日	7,899日
平均入居期間	男	9年10ヵ月	9年8ヵ月
	女	11年4ヵ月	12年2ヵ月
	計	11年4ヶ月	12年2ヶ月
最長入居期間	男	18年	17年
	女	18年	17年

区分		2019年	2018年
平均年齢	男	50.5歳	49.8歳
	女	54.6歳	52.6歳
	計	52.2歳	51.0歳
最高年齢	男	75歳	74歳
	女	69歳	68歳
最低年齢	男	25歳	24歳
	女	42歳	41歳
出身地域	圏内	21人	20人
	圏外	1人	1人
	県外	0人	0人
平均区分		5.1	5.33

区分		2019年	2018年
新入居者数	男	1人	1人
	女	2人	0人
	計	3人	1人
退居者数	男	0人	1人
	女	2人	1人
	計	2人	2人
入院者数	男	0人	3人
	女	0人	2人
	計	0人	5人
入院日数	男	0日	16日
	女	0日	41日
	計	0日	55日

入居者の障害程度区分

区分	2019年	2018年
障害程度区分1	0人	0人
障害程度区分2	0人	0人
50歳未満障害程度区分3	0人	0人
50歳以上障害程度区分3	1人	0人
障害程度区分4	5人	4人
障害程度区分5	6人	6人
障害程度区分6	10人	11人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	3人	1人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	0人	0人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	2人	2人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	0人
他施設へ転出	0人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	月												2019年	2018年
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
短期入所生活介護事業	利用延人数	64	64	80	45	70	65	83	65	65	57	59	69	786人	785人
	平均人数	2.1	2.1	2.7	1.5	2.3	2.2	2.7	2.2	2.1	1.8	2.0	2.2	2.1人	2.1人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	365日
生活介護	利用延人数	453	487	418	442	466	472	511	467	486	481	433	464	5,580人	5,247人
	平均人数	20.6	21.2	20.9	19.2	21.2	22.5	22.2	22.2	22.1	24.1	21.7	21.1	21.5人	20.1人
	開所日数	22	23	20	23	22	21	23	21	22	20	20	22	259日	261日
訪問介護事業	訪問回数	64	70	63	65	65	57	63	62	62	61	64	67	763回	742回
	訪問延時間	70.5	91.5	82	86.5	86	78	89.5	82	85	81.5	81.5	87	1,001.0時間	952.0時間
身体障害者相談事業	利用件数	226	256	222	197	153	245	256	279	314	395	301	393	3,237件	2,389件
ワークショップマナ	利用人数	558	520	509	564	495	533	562	540	524	517	494	538	6,354人	5,813人
	開所日数	22	21	21	23	20	21	22	21	21	21	20	21	254日	254日

V.職員の状況

職種	配置		男		女		就職		退職		移動		比較増減	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
施設長	(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	(2)	(1)	0	0	(2)	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0
サービス管理責任者	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
直接処遇職員	生活支援員	7	4	5	1	2	4	0	2	0	1	0	1	0
	看護職員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
機能訓練職員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
栄養士	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	(2)	(7)	(1)	(1)	(1)	(6)	0	0	0	0	0	0	0	
医師	0	(1)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	(6)	0	(4)	0	(2)	0	0	0	0	0	0	0	
小計	11(5)	4(15)	7(2)	1(6)	4(3)	4(9)	0	2	0	1	0	1	0	
在宅事業	相談支援事業	3(1)	0	1(1)	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	ワークショップマナ	8(1)	1	2(1)	0	6	1	2	0	1	0	0	1	0
	訪問介護	(2)	(2)	0	0	(2)	(2)	0	0	0	0	0	0	0
小計	11(4)	1(2)	3(2)	0	8(2)	1(2)	2	0	1	0	0	1	0	
合計	22(9)	5(17)	10(4)	1(6)	12(5)	5(11)	2	2	1	1	0	1	1	

*現員は2020年3月31日現在 ()は兼務 就退職は2019年度内増減

VI.寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	0件	0円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅	0件	0円
一般	3件	25,000円
業者	0件	0円
職員	0件	0円
役員	0件	0円
合計	3件	25,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収	0件	0円
寄付物品	0件	0円

伊東市立養護老人ホーム 平和の杜 2019年事業報告

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

1. 「人格を尊重し、生きる喜び、生きる自由、生きる希望を創ります」を基盤として、行動規範に取り組み、利用者の皆さんが、かけがえのない人生を、最期までその人らしく生き続けることができるよう支援した。
2. 主の祈りをもとに、新たに発足したキリスト教の学びの会も用いて、利用者一人ひとりの穏やかな日々の暮らしと、利用者相互の支えあい、助け合いで、なごやかでのびやかな共同体になりつつある。

B. 運営方針について

1. 伊豆高原十字の園敷地への移転新築及び指定管理から法人直営への事業移管を伊東市へ提案・要望してきたが、理事長、施設長と伊東市との間で話し合いを継続している。また、修繕及び設備更新等の状況を高齢者福祉課へ直接報告し担当課長等にも認識して頂くように努め課長補佐の現場確認に至ったが具体的な計画とはなっていない。
2. 前期適正配置は進んで来たが職員の補充が一年を通し難しく在宅事業の利用増加を図ることができなかった。
3. 事務部門に関しては、くつろぎの家で事務体制がとれるようになっているが、事務分担が定まっていない為、効率化を図ることは出来なかった。在宅事業に関しては、採用の難しさが目立ってしまったが、会議・職員面接等で課長職の兼務が位置づいた。
4. 伊豆高原十字の園に行く機会が多かったことが幸いし効率的に出来たが、合同の食事提供には至りませんでした。
5. 年度当初は新しい嘱託医との調整に追われたが、利用者の健康維持に繋げることが出来た。又、集会室だけでなく二階渡り廊下に季節ごとに作品を飾ることが出来た。
6. 施設内研修及び法人内研修以外の外部研修は上司申し込み・本人申し込みの方法で参加がしやすくなった。

II. 事業計画・目標の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. 養護老人ホーム

- 1) 個別に関わりの時間を今までよりも細目に持つことができ、その中から充実した生活を一緒に考え、そこから聞かれた新たなニーズに対して支援をすることができた。それを繰り返しモニタリングすることで本人の意向をより深く知ることができた。
- 2) 業務変更が続くなか、嘱託医・事務所と連携しスムーズに見える化は進んだ。又、多くの課題も見え、働きやすい職場作りに取り組む必要性を感じた。
- 3) 今後（医療・介護・転居等）に不安を感じている入居者に対し、他部署と連携して情報提供を行い、不安を安心に変えることが出来た。
- 4) 燕下困難者の食事の工夫に苦戦しつつも他部署との連携により配慮することが出来た。又、季節行事にメニューを合わせ利用者と楽しい食事の提供ができた。統合に向けての進展は作れなかった。
- 5) 松崎十字の園の事務分担は出来てきたが、伊東市立養護老人ホームの事務分担は途中までしか出来なかった。

2. ショートステイ事業

緊急ショートで受け入れた方が、ショート利用後の生活再建先を探すことが困難で、長期利用となった。生活再建先を安全安心なものにするために関係機関と協力連携し支援することで、安心安全な生活再建の維持に貢献できた。

3. 生きがいデイサービス

利用人数、日14名の目標は達成できた。利用者は週1回の利用だが、他部署の協力もあり、

個々のニーズにできる範囲で答えADLが低下しないよう、利用者同士の交流や社会交流・外出のプログラムを多く取り入れ自立支援を支えることが出来た。又、様々な行事を計画し季節を感じて頂くことも出来た。

4. 通所介護事業

1) 平和の杜

行動規範、サービス基準指針に沿った適切な支援を進めるため、個々に利用者の声を聞き、家族や環境を含めて思いを受け止め、家族や居宅・関係機関と情報を共有し、その人にとって最も良い支援をその時々話し合い確認しながら決めて進めることが出来た。

2) 一碧の杜「くつろぎの家」

利用者の個別の傾聴及びケアマネージャーとの密な情報共有を基に個々のニーズに合わせたサービスの提供を実施した。地域の方々との交流の機会を定期的（月一回）にもち、地域に根差した居場所づくりに努めたが結果にはまだ結びついていない。又、市内の居宅・包括等に毎月訪問し在宅利用者の増加を図ったが、後半は人材不足のため難しく利用人数は7.7名に止まった。

5. 訪問介護事業

各部署と連携を密にするためにサービス担当責任者が、各担当者に会って迅速に情報共有を行った。利用者の変化についても各部署とその都度会って話をする事で新たなニーズの共有が迅速にできた。その事を繰り返すことで一人一人に合ったサービスの提供ができるようになりサービスの質が高まった。

6. 居宅介護支援事業

本人家族の生活のリズムが変わらないように都度困りごとを傾聴し、双方が希望する生活が続けられるようにサービス調整することが出来た。

B. 利用実績

	養護	特定施設	老人短期	生きがいデイ	居宅支援	
	(指定管理)			(指定管理)		
利用定員	50名	24名	6名	15名	39名	
利用数延数	18,250名	8,014名	941名	3,196名	361名	
1日平均利用者数	50.0名	21.9名	2.6名	14.7名	30.1名	
稼働率、稼働指数	100.00%	91.48%	42.97%	97.73%	77.13%	
稼働日数	365日	365日	365日	218日	12月	
単価(一人一日当たり)	6,191円	968円	3,815円	6,510円	11,021円	
老人福祉事業収入	113,000千円		3,581千円	21,610千円		
介護保険事業収入		7,557千円			4,012千円	
職員数(常勤換算)	14.97名	1.11名	0.22名	3.69名	1.00名	
	通所介護Ⅰ 平和の杜	通所介護Ⅱ くつろぎの家	(再掲) 特定通所	訪問介護	(再掲) 特定訪問	事業活動収入 職員数 計
利用定員	15名	10名		27名		
利用数延数	3,240名	1,790名	(1494名)	38,495回	(38,016回)	
1日平均利用者数	12.4名	7.7名	(5.4名)	105.5回	(104.1回)	
稼働率、稼働指数	82.75%	77.48%				
稼働日数	261日	230日	(230日)	365日	(365日)	
単価(一人一日当たり)	7,452円	8,010円		1回15分865円		
介護保険事業収入	25,123千円	14,607千円		33,736千円		225,548千円
職員数(常勤換算)	4.19名	2.75名	0.00名	4.88名	0.00名	32.81名

C. 資金収支、財務状況

1. 資金収支予算達成状況

(単位；千円、未満切捨て)

	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	227,174	225,548	220,939	213,528	6,235	12,019
施設整備による収支	0	0	150	0	△150	0
その他活動による収支	20,331	20,143	23,764	25,274	△3,433	△5,130
当期資金収支					2,652	6,889

- ・収入について；通所事業の平和の杜とくつろぎの家は新規の利用者の増員できなかったため減収となった。訪問事業（特定）は要介護が高くなり利用回数増となり増収となったが、拠点としての収入は予算より減収となった。
- ・支出について；職員の退職に伴う補充ができなかったため人件費が予算より減になった。事業費についても給食費、本人支給金も負担割合減により支出が抑えられたため当初予算より減少した。

2. 事業活動計算書の推移

(単位；千円、未満切捨て)

	2019年	2018年	2017年	2016年	2015年
サービス活動収益	223,513	220,325	224,049	219,217	217,969
サービス活動費用計	212,938	206,149	222,887	218,161	221,852
サービス活動増減差額	10,574	14,176	1,161	1,055	△3,883
経常増減差額	733	156	375	198	190
特別増減差額	△3,360	△3,838	△3,767	△3,300	△104
当期活動増減差額	7,948	10,495	△2,230	△2,045	△3,797

- ・サービス活動収益；通所 平和の杜とくつろぎの家の利用者数の減少に伴い減収となった。訪問（特定）は利用回数の増加に伴い増収となったが、拠点としては前年より減収となった。
- ・サービス活動費用；常勤職員の退職に伴う補充ができなかったため人件費が大幅な減額となった。

3. 設備投資及び積立の状況

- ・老朽化した電気設備等について市役所立会者もと2020年度予算計上を依頼する。
- ・消防設備等緊急修理を要する修繕のため修繕積立金に150万円を計上した。

4. 借入金の状況

拠点区分間長期借入金 2,000万円を本部拠点へ返済し、再度本部拠点から2,000万円を支払資金として借り入れた。

III. 対処すべき課題

1. 施設老朽化に伴い伊東市との設備更新の予算化を依頼する。
2. 居室棟の暖房器具の更新計画（伊東市に見積書等）をする。

IV. 利用者の状況

施設名 伊東市立養護老人ホーム

1. 施設利用の状況

区分		2019年	2018年
入居者数	男	14人	12人
	女	34人	32人
	計	48人	44人
利用日数	男	4,538日	4,619日
	女	12,168日	11,789日
	計	16,706日	16,408日
平均入居期間	男	6.0年	6.3年
	女	5.6年	5.3年
	計	5.8年	5.8年
最長入居期間	男	27.1年	26.1年
	女	17.9年	16.9年

区分		2019年	2018年
平均年齢	男	82.8歳	81.8歳
	女	83.2歳	83.2歳
	計	83.0歳	82.5歳
最高年齢	男	94歳	93歳
	女	96歳	98歳
最低年齢	男	71歳	70歳
	女	69歳	69歳
出身地域	圏内	48人	43人
	圏外	0人	0人
	県外	0人	1人
平均介護度		2.5	2.2

区分		2019年	2018年
入居者数	男	3人	2人
	女	3人	2人
	計	6人	4人
退居者数	男	1人	4人
	女	1人	5人
入院者数	男	2人	12人
	女	5人	7人
入院日数	男	18日	449日
	女	164日	235日
	計	182日	684日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	22人	18人
要支援	2人	4人
要介護度1	6人	9人
要介護度2	6人	4人
要介護度3	8人	6人
要介護度4	2人	0人
要介護度5	2人	3人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	5人	4人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	1人	0人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	2人	3人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	0人	5人
その他	0人	0人

2. 在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
		短期入所生活介護(介護保険外)	利用延人数	86	108	93	82	72	87	109	102	106	34		
	平均人数	2.9	3.5	3.1	2.6	2.3	2.9	3.5	3.4	3.4	1.1	1.1	1.0	2.6人	1.5人
	開所日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366日	365日
生きがいデイサービス事業	利用延人数	298	274	311	331	297	266	313	288	301	266	251	0	3,196人	3,329人
	平均人数	14.9	15.2	15.6	15.0	14.1	14.0	14.9	14.4	15.1	14.0	13.9	0.0	14.7人	13.7人
	開所日数	20	18	20	22	21	19	21	20	20	19	18	0	218日	243日
通所介護事業(併設)	利用延人数	241	251	242	272	256	263	317	287	289	268	270	284	3,240人	3,238人
	平均人数	11.0	11.4	12.1	11.8	11.6	12.5	13.8	13.7	13.1	11.7	13.5	12.9	12.4人	12.5人
	開所日数	22	22	20	23	22	21	23	21	22	23	20	22	261日	259日
訪問介護事業	訪問回数	3039	3212	3206	3305	3277	3287	3119	3035	3004	3289	2972	3750	38,495回	34,950回
	訪問延時間	912	960	955	990	982	981	941	916	904	989	879	1,086	11,493時	10,519時
居宅介護支援事業	件数	30	29	29	30	31	32	31	32	34	28	25	30	361件	371件
通所介護事業(単独)	利用延人数	156	140	138	159	152	135	177	159	157	138	127	152	1,790人	2083人
	平均人数	8.7	8.2	8.6	8.8	8.4	8.4	8.0	7.6	7.1	6.9	6.4	6.9	7.8人	7人
	開所日数	18	17	16	18	18	16	22	21	22	20	20	22	230日	310日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
	施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事務員	2	1	2	0	0	1	1	0	0	0	1	0	
相談員	1(1)	1	(1)	0	1	1	1	0	1	0	0	0	
介護支援専門員	1	(1)	0	0	1	(1)	0	0	0	0	0	0	
直接処遇職員	生活支援員	4	0	2	0	2	0	1	0	1	0	0	0
	特定介護員	4	0	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	看護職員	2	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	-1
	機能訓練職員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士	(1)		(1)	0	0	0	0	0	1	0	-1	0	
調理師・員	4	3	0	0	4	3	0	0	0	0	0	0	
医師		1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
小計	19	7	6	1	13	6	3	1	3	0	0	-1	
在宅事業	生きがいデイ	2(2)	3(3)	1(2)	1	1	2(3)	0	2	0	2	0	0
	通所事業(併)	2(2)	4(2)	1(1)	0	1(1)	4(1)	1	2	1	1	0	1
	訪問介護	1(7)	0	(3)	0	1(4)	0	0	0	0	0	0	0
	居宅支援	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	通所事業(単)	1(3)	3(2)	(2)	1	1(1)	2(1)	0	1	0	1	0	0
小計	7	10	2	2	5	8	1	5	1	4	0	1	
合計	26	17	8	3	18	14	4	6	4	4	0	0	

*現員は2020年度3月31日現在 就退職は2019年度内増減 ()は兼務

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	1件	80円
入居者家族	0件	0円
遺族	0件	0円
在宅一般	3件	265,000円
業者	1件	10,000円
職員	1件	10,000円
役員	0件	0円
合計	6件	285,080円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

軽費老人ホーム（ケアハウス）第2アドナイ館 2019年度事業報告書

I. 総括

A. 理念の継承、精神的基盤について

法人の理念に基づき事業運営を行うため、各事業所にローズンゲンと日めくりカレンダーを配布した。第2アドナイ館での礼拝は、近隣牧師、長老、信徒の方の協力のもと精神的（霊的）な糧をいただき、理念の実践に結び付けた。

B. 運営方針について

1. 浜松地区として一体的組織へ円滑に移行し、チームとして利用者のその人らしさを支える。

・第2アドナイ館グループとしての一体化への取り組みは、在宅サービスを一つのグループとし1課2課に分けて管理をした。今までの施設ごとの関係から、在宅サービス課でまとまり連携を行う取り組みをした。在宅グループ1課2課共通の取組みとして、それぞれの事業所の特徴をお互いには発表する機会を設け、お互いがどのようにその人らしさを支えようとしているのかを知る機会とした。施設間では、相談員会議を開催し、各施設の状況と課題について共有し、その人らしい暮らしの場を提供するために協力して入退去支援を行った。

2. 各事業所間で積極的にコミュニケーションを図り、事業所間の連携を強化する。

・在宅サービス会議、相談員会議を新たに開催し、各施設・事業所の管理者・担当者がコミュニケーションを図る機会を作った。居宅支援事業所では、アドナイ館でも事務作業ができるようにしてアドナイ館の職員と連携強化を図った。その事によりアドナイ館利用者の介護保険の新規利用のしやすさに繋がった。

II 事業計画の達成状況・実績

A. 各事業・職場の目標達成状況

1. ケアハウス

◎地域に向けた取り組みの継続と交流の機会を作る。

- ・地域に向けた取り組みを継続し地域に知られることで、施設や事業を選んでいただき、待機者確保、利用者増に向けて取り組んだ。
- ・浜松地区として総合見学会を実施。総合見学会の時にミニバザーを開催した。開催後施設へ入所申し込みがあり一定の効果があったと考える。
- ・野点はクリストファー高校茶道部と交流を目的に企画したが、新型コロナウイルスの影響により中止した。

◎新しい組織体制の定着と円滑な移行

- ・評価制度における面談の実施を行い新たに異動した職員と管理者がコミュニケーションを円滑に図れるようにした。ユニット会議で利用者と事業運営の話の両方を行っておりそれぞれに十分な話し合いの場が持てなかったため会議体の形を変更し取り組んだ。

2. トレーニング型デイサービス ぷらすワン

◎「ぷらすワンらしさ」を地域に発信する。

- ・地域で生活されている方の課題を把握するため、利用者アンケートを実施。地域の課題は移動支援が上げられ今後の支援に繋げていきたい。地域の体操教室等の活動依頼が今年度はなく未実施となった。
- ・リハビリ定期便を発行することによって職員も利用者もトレーニングに対する知識を高めるよう取り組んだが、年間2回と当初予定の半分となった。

3. 十字の園 居宅支援事業所

◎ケアマネジメントの質の向上を図り、信頼され選ばれる事業所を目指す

- ・特定事業所加算算定事業所となったが、あんきの事業休止に伴い、ケアマネの異動が遅れ、加算算定期間が遅れた。特定事業所としても必要な内部研修体制を整え毎月行った。朝の

- ミーティング時に各自の業務内容について確認し、業務を見直し効率化を図った。
- 定期的に相談会を実施するよう企画したが、総合見学会と根洗荘祭りに限定された。

4. ヘルパーステーションほそえ

- ◎在宅生活を安心して継続して頂くために、利用者の声やお互いの気づきを共有する。
- ・職員間のミーティングの場で利用者の声や職員の気づきについて話し合いを行ったが振り返りの為の記録が不十分であった。ミーティングで得た内容についてはケアマネにも連絡をし、共有を図った。

5. 認知症対応型通所介護 のんき

- ◎地域の方とご家族にのんきを知っていただく。
- ・機関紙の発行を定期的に行い家族、地域に知られる取り組みをした。行事の開催を家族・地域に案内したが、残念ながら参加はなかった。

6. げんきプロジェクト根洗荘

- ◎自立した生活が継続できるよう行事計画を充実し、精神面・体力面をサポートする。
- ・チラシを新しく作り、配布することで活動や取り組みを知って頂く工夫をした。長く通われている方が少しずつ減り、その分を補充できるほど新規利用にはつなげていない。
- ・居宅支援事業所と連携し、相談会の定期的な開催を企画したが、総合見学会と根洗荘祭りに留まった。
- ・利用者家族も含めた支援として、遠出又は旅行を計画し家族の参加を呼び掛けたが、家族の参加はなかった。利用者の遠出については、久能山に行く事ができた。

7. 小規模多機能型ホーム あんき

- ◎円滑に事業移行を行い、認知症デイサービスののんきと連携して事業継続を図る
- ・事業変更を行い認知症デイサービスとしての事業継続を図ったが、利用者人数の増加を見込めず事業継続を断念した。

8. 公益的取組目標

- ◎地域サロン（カフェ）、中学生体験実習、小学生との戦争体験交流
- ・地域サロンは開催できていない。中学生体験実習、小学生との戦争体験交流は実施した。

B. 利用実績

(職員数は 2019 年度末月現在の数とする)

	ケアハウス	地域密着型 特定施設	通所介護 ぷらすワン	認知症通所 介護のんき	根洗荘
利用定員	20 人	20 人	20 人	12 人	—
利用者延数	7,290 人	6,619 人	3,629 人	2,259 人	3,729 人
1 日平均利用者数	19.9 人	18.0 人	15.7 人	7.2 人	14.7 人
稼働率、稼働指数	99.6%	90.4%	78.7%	60.7%	—
稼働日数	366 日	366 日	230.5 日	310 日	253 日
単価（一人一日当たり）	8,382 円	7,016 円	5,827 円	11,830 円	2,455 円
老人福祉・介護保険事業収入	61,106 千円	46,440 千円	21,148 千円	26,726 千円	8,052 千円
職員数（常勤換算）	16.9 人		5.2 人	5.6 人	2.9 人
	小規模多機能 あんき	認知症通所 介護あんき	居宅介護 支援	訪問介護	事業活動 収入合計
利用定員	24 人/月	12 人	157.5 人/月		
利用者延数	39 人/月	380 人	1,565 人	6,144 回	
1 日平均利用者数	7.8 人/月	2.1 人	130.4 人/月	512.0 回/月	
稼働率、稼働指数	32.5%	17.8%	82.8%		
稼働日数	183 日	178 日	12 ヶ月	258 日	
単価（一人一日当たり）	203,435 円/月	11,773 円	14,417 円	3,847/回	
介護保険事業収入	7,934 千円	4,474 千円	22,564 千円	23,641 千円	225,157 千円
職員数（常勤換算）	3.7 人		5.0 人	4.8 人	44.1 人

*小規模多機能あんきは 8 月までの実績、認知症通所介護は 9 月からの実績を計上した。

C. 資金収支、財務状況

1 資金収支予算達成状況

(単位:千円、未満切り捨て)

(千円単位)	収入		支出		収支差額	
	当初予算	実績	当初予算	実績	当初予算	実績
事業活動による収支	257,229	225,157	251,942	255,495	5,287	△30,337
施設整備による収支	0	38,980	14,362	53,477	△14,362	△14,497
その他活動収支	16,489	53,680	7,040	13,063	9,449	40,616
当期資金収支					374	△4,218

(当初予算との増減差額が大きい要因)

- ・事業活動による収支：収入 32,072 千円減（各事業の利用実績が目標値に達しなかったため 40,427 千円減。入居一時金を長期預り金へ科目変更したため帳簿上 6,000 千円増。落雷被害への火災保険補填等により 1,217 千円増）。支出 3,553 千円増（3 月勤務実績を反映し 3,740 千円増、利用者源により給食費 1,489 千円減、修繕増 986 千円増）
- ・施設整備による収支：借入金借り換えにより収入支出共に 38,980 千円増
- ・その他の活動収支：収入 37,191 千円増（積立取崩 13,541 千円増、本部・浜松からの繰入 23,650 千円増）。支出 6,023 千円増（入居一時金を長期預り金積立へ振替し 6,000 千円増）

2 事業活動計算書の推移

(単位:千円、未満切り捨て)

	2019 年度	2018 年度	2017 年度	2016 年度	2015 年度
サービス活動収益計	217,679	279,562	252,516	256,660	235,477
サービス活動費用計	268,773	274,897	277,556	277,103	260,519
サービス活動増減差額	△51,093	4,664	△25,039	△17,442	△25,041
経常増減差額	△50,452	3,726	△26,460	△18,907	△26,544
特別増減差額	28,429	0	△81	0	52,591
当期活動増減差額	△22,022	3,726	△26,542	△18,907	26,046

(2018 年との差額が大きい要因)

- ・サービス活動収益計 61,883 千円減。要因：寄付金 29,614 千円減、介護事業収入 33,133 千円減
- ・サービス活動費用計 6,124 千円減。要因：人件費 2,598 千円減、事業費 2,367 千円減、事務費 4,428 千円増（修繕、PC 更新）、減価償却 2,032 千円減、国庫補助金特別積立金取崩額 3,534 千円減
- ・経常増減差額 54,179 千円減。要因：サービス活動増減差額が大きく減ったため。
- ・特別増減差額 28,429 千円増。要因：本部・浜松からの繰入 32,839 千円。あんきスプリンクラー補助金返還 4,409 千円

3 設備投資及び積立金の状況

- ・設備投資：サポート終了等のパソコン入替 1,363 千円、根洗荘畳表替え 105 千円
- ・その他：あんき補助金返還 4,409 千円
- ・積立金：施設整備等積立資産取崩 19,820 千円、修繕費積立資産取崩 600 千円
長期預り金積立資産支出 6,000 千円

4 借入金及び借入金償還の状況

- ・設備資金借入金 収入 38,980 千円（借入金借り換えによる収入）
元金償還 48,842 千円（内 借入金借り換えによる返還 38,980 千円）
利息支出 833 千円、年度末残高 100,970 千円
- ・拠点区分間長期借入金返済 6,470 千円、年度末残高 112,660 千円

III. 対処すべき課題

- ・地区としての一体化を進め、理念・行動規範に沿った信頼し合えるチーム作りをする。

IV利用者の状況(2019年度)

施設名 第2アドナイ館グループ

1.施設利用の状況(基準日:3月31日)

区分	2019年	2018年	
入居者数	男	2人	2人
	女	18人	18人
	計	20人	20人
利用日数	男	325日	643日
	女	6,294日	6,250日
	計	6,619日	6,893日
平均入居期間	男	0.6年	1.5年
	女	2.8年	4.7年
	計	2.6年	4.4年
最長入居期間	男	1.0年	2.8年
	女	9.6年	9.8年

区分	2019年	2018年	
平均年齢	男	83.0歳	98.0歳
	女	89.3歳	88.6歳
	計	88.7歳	89.5歳
最高年齢	男	84歳	102歳
	女	98歳	102歳
最低年齢	男	82歳	93歳
	女	77歳	73歳
出身地域	圏内	20人	20人
	圏外	0人	0人
	県外	0人	0人
平均介護度	1.63	2.65	

区分	2019年	2018年	
入居者数	男	2人	2人
	女	18人	18人
	計	20人	20人
退居者数	男	1人	2人
	女	8人	4人
	計	9人	6人
入院者数	男	0人	3人
	女	7人	7人
	計	7人	10人
入院日数	男	0日	70日
	女	125日	131日
	計	125日	201日

入居者の介護度区分

区分	2019年	2018年
自立	1人	0人
要支援	0人	0人
要介護度1	11人	7人
要介護度2	5人	3人
要介護度3	2人	3人
要介護度4	1人	4人
要介護度5	0人	3人

入居前住居

区分	2019年	2018年
自宅	3人	4人
病院	0人	0人
老健施設	0人	0人
療養型	0人	0人
グループホーム	0人	0人
他施設	6人	2人
合計	9人	6人

退居者内訳

区分	2019年	2018年
死亡	6人	5人
帰宅	0人	0人
病院へ転出	0人	1人
他施設へ転出	3人	0人
その他	0人	0人

2.在宅サービスの状況

事業名	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2019年度	2018年度
通所介護事業 (地域密着型) ぶらすワン	延人数	297	337	278	312	305	288	345	302	305	291	266	307	3,633人	3,644人
	一日平均	15.2	16.0	15.4	15.2	15.3	15.6	16.4	15.9	16.5	16.2	15.6	15.7	15.8人	15.8人
	営業日数	19.5	21.0	18.0	20.5	20.0	18.5	21.0	19.0	18.5	18.0	17.0	19.5	230.5日	231.0日
通所介護事業 (認知症) のんき	延人数	216	222	221	214	206	169	161	158	149	153	171	219	2,259人	2,270人
	一日平均	8.3	8.2	8.8	7.9	7.6	6.8	6.0	6.1	6.0	6.4	6.8	8.4	7.3人	7.6人
	営業日数	26	27	25	27	27	25	27	26	25	24	25	26	310日	300日
通所介護事業 (認知症) あんき	延人数	/	/	/	/	/	55	67	70	70	66	52	0	380人	/
	一日平均	/	/	/	/	/	2.2	2.5	2.7	2.7	2.8	2.2	0.0	2.5人	/
	営業日数	/	/	/	/	/	25	27	26	26	24	24	0	152日	/
訪問介護事業	延回数	507	545	499	580	559	543	510	485	478	470	442	517	6,135回	6,450回
	延時間数	438	476	426	502	478	464	443	423	414	401	377	427	5,269時	5,370時
居宅介護 支援事業所	件数:介護	111	110	114	109	114	116	115	110	110	106	102	106	1,323件	1,653件
	件数:予防	43	36	38	38	39	34	37	39	41	45	47	48	485件	
小規模多機能事業	登録人数	10	9	7	8	5	/	/	/	/	/	/	/	39人	226人
在宅自主事業 根洗荘	延人数	300	314	304	316	333	314	340	314	306	297	296	295	3,729人	3,756人
	一日平均	14.3	14.3	15.2	14.4	15.1	15.7	14.8	15.0	15.3	14.9	14.8	13.4	14.7人	15.1人
	営業日数	21	22	20	22	22	20	23	21	20	20	20	22	253日	249日

V. 職員の状況

職種	配置		男		女		就職転入		退職転出		比較増減		
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	
施設長	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
事務員	1	1	0	1	1	0	0	0	1	0	-1	0	
生活相談員	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
特定施設入居者生活介護	介護支援専門員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
	介護職員	8	2	1	0	7	2	2	0	1	0	1	
	看護職員	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	
	機能訓練職員	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
栄養士	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
調理師・員	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
歯科衛生士	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
その他	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	-1	
小計	15	5	3	1	12	4	3	0	3	1	0	-1	
在宅事業	ぶらすワン	3	3	1	0	2	3	0	1	0	1	0	0
	のんき	2	8	1	2	1	6	0	0	1	0	-1	0
	あんき	3	6	0	1	3	5	1	0	5	2	-4	-2
	居宅支援	5	0	3	0	2	0	1	0	0	0	1	0
	訪問介護	3	6	0	0	3	6	1	1	0	2	1	-1
	根洗荘	1	5	0	1	1	4	1	1	0	2	1	-1
小計	17	28	5	4	12	24	4	3	6	7	-2	-4	
合計	32	33	8	5	24	28	7	3	9	8	-2	-5	

VI. 寄付金収入

区分	件数	寄付金額
入居者	1件	10,000円
入居者家族	4件	40,000円
遺族	1件	500,000円
在宅	0件	0円
一般	1件	20,000円
業者	0件	0円
職員	3件	1,020,000円
役員	0件	0円
合計	10件	1,590,000円

その他寄付金収入

寄付等雑収入	0件	0円
寄付物品	0件	0円

* 現員は2020年3月31日現在。

就退職は2019年度内増減。